

取扱説明書

Bluetooth®/CD/USB/チューナーメインユニット

DEH-7100



Made for



iPod



iPhone

■お客様登録のお願い

製品に関する情報をお知らせするために、お客様登録をお願いします。

登録は弊社ホームページにて可能です。以下URLにアクセスして登録を行ってください。

<http://pioneer.jp/support/members/>

なお、登録時に保証書に記載されている内容が必要になりますので、保証書をお手元にご用意ください。弊社からの本製品の安全に関する重要なお知らせは、お客様登録をしていただいたお客様にいたします。必ず登録をしていただきますようお願いいたします。

お買い上げいただきありがとうございます

- ▶ ご使用前に必ず本書をよくお読みいただき、記載された内容にしたがって正しくお使いください。
- ▶ 本書は紛失しないよう車の中に保管してください。

はじめに

基本操作

CDを
聞く

ラジオを
聞く

USBを
聞く

iPodを
聞く

アプリを
操作する

BT AUDIO
を聞く

Bluetooth
機器の接続

携帯電話
を使う

音の調節

初期/
システム設定

その他機能

接続/
取り付け

困ったときは

付録

安全上のご注意 (安全にお使いいただくために必ずお守りください)

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

- 表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

 警告	「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」です。
 注意	「人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」です。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

 注意(警告を含む)しなければならない内容です。	 必ず行っていただく強制の内容です。
 禁止(やってはいけないこと)の内容です。	

AU-001-002

接続・取り付け

警告



禁止

本機は、DC12V \ominus アース車専用です
24V車で使用しないでください。火災や故障の原因となります。

エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に取り付けと配線をしない
エアバッグ装着車に取り付ける場合は、車両メーカーに作業上の注意事項を確認してください。エアバッグが誤動作し、死亡事故の原因となります。

前方視界や運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には絶対に取り付けない

交通事故やケガの原因となります。

電源コードの被覆を切って、ほかの機器の電源を取らない

電源コードの電流容量がオーバーすると、火災や感電、故障の原因となります。

取り付けには保安部品(ステアリング、ブレーキ、タンクなど)のボルトやナットは絶対には使用しない
これらを使用すると、制動不能や発火、交通事故の原因となります。

警告



禁止

アンテナは、保安基準に適合しない場所に貼り付けたり、再貼り付けや汎用の両面テープで貼り付けたりしない

視界不良やアンテナがはがれて、事故の原因となります。



強制

取付・配線、取付場所の変更は、安全のため必ず販売店に依頼する

取付・配線や取り外しには、専門技術と経験が必要です。誤った取り付けや配線、取り外しをした場合、車に重大な支障をきたす場合があります。また、お客様ご自身による取付・配線は、ケガの原因となります。

作業前はバッテリーの \ominus 端子を外す
 \oplus と \ominus 経路のショートにより、感電やケガの原因となります。

作業前に、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認する

車体に穴を開けて取り付ける場合は、パイプ類・タンク・電気配線などに干渉・接触しないように注意してください。また、加工部のサビ止めや浸水防止の処置を行ってください。

警告



強制

必ず付属の部品を使用し、確実に固定する

付属の部品以外を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できずに外れて運転の妨げとなり、事故やケガの原因となります。

説明書に従って接続・取り付けする
説明書に従わずに接続・取り付けを行うと、火災や故障の原因となります。

コードの被覆がない部分はテープなどで絶縁する

ショートにより、火災や感電、故障の原因となります。

車体やネジ部分、シートレールなどの可動部にコードを挟み込まないよう配線する

断線やショートにより、火災や感電、故障の原因となります。

コード類は運転操作の妨げとならないように固定する

ステアリングやセレクトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと、事故の原因となります。

取り付けと配線が終わったら、電装品が元通り正常に動作するか確認する

正常に動作しない状態で使用すると、火災や感電、交通事故の原因となります。

ねじなどの小物部品は、乳幼児の手の届かないところに保管する

誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

注意



禁止

直射日光やヒーターの熱風が直接当たる場所に取り付けない

内部温度が上昇し、火災や故障の原因となることがあります。

アンテナやモニターを不安定なところに取り付けない

落下などの原因となることがあります。

通風口や放熱板をふさがない

内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

コード類は絶対に途中で切断しない

コード類にはヒューズがついている場合があるため、保護回路が働かなくなり、火災の原因となることがあります。

注意



禁止

コード類の配線は、車体の高温部に接触させない

火災や感電の原因となることがあります。

製品同梱の電源リード線は、バッテリーに直接接続しない

火災や感電の原因となることがあります。電流が不足して、バッテリーから直接電源を取る場合は、専用の配線キットを使用してください。

分岐配線をしない

ケーブルが加熱して、火災・感電の原因となることがあります。

雨が吹き込む所や水や結露、ほこり、油煙などが混入するところには取り付けない

発煙や発火、故障の原因となることがあります。

コードが金属部に触れないように配線する

金属部に接触するとコードが破損して、火災や感電、故障の原因となることがあります。

アンテナやカメラは車幅や車の前後からはみ出さない場所に取り付ける
歩行者などに接触して、思わぬ事故の原因となることがあります。

アンテナコード等を車内に引き込む際は、雨水の浸入に注意する

雨水が車内に浸入すると、火災や感電の原因となることがあります。

使用方法

警告



禁止

運転者は走行中に操作をしない

前方不注意となり交通事故の原因となります。必ず安全な場所に停車してから操作してください。

メディア挿入口に手や指、異物を入れない

ケガや感電、火災や故障の原因となります。

液体で濡らさない

発煙・発火・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

リモコンなどを放置しない

停車した時やカーブを曲がるときに、リモコンなどが足もとに転がり、ブレーキペダルなどの下に入り込むと運転の妨げになり、交通事故の原因となります。

警告



禁止

画面が映らない、音が出ない、音声が割れる、歪むなどの異常・故障状態で使用しない

思わぬ事故や火災、感電の原因となります。



接触禁止

雷が鳴り出したら、アンテナコードや本機に触れない

落雷による感電の危険性があります。



分解禁止

分解や改造をしない

交通事故や火災、感電の原因となります。



強制

ヒューズを交換するときは、必ず規定容量(アンペア)のヒューズを使用する

規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災や故障の原因となります。

注意



禁止

本機は車載用以外で使用しない

発煙や発火、感電やケガの原因となることがあります。

アンプの放熱部に手を触れないやけどの原因となることがあります。



強制

音量は、車外の音が聞こえる程度で使用する

車外の音が聞こえない状態で運転すると、交通事故の原因となることがあります。



指のケガに注意

モニターの収納や角度調整時に手や指を挟まれないように注意するケガの原因となることがあります。

電池は正しく使う

警告



強制

事故防止のため、電池は幼児の手の届かない場所に保管する

万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師の治療を受けてください。

電池の極性(⊕、⊖)に注意し、表示通りに入れる

電池の極性を間違えると、破裂、液漏れなどにより、ケガや周囲を汚染する原因となることがあります。

警告



強制

電池の液漏れが発生した場合は

皮膚や衣服に付着した時は、きれいな水で洗い流してください。目に入った時は、きれいな水で洗ったあと、ただちに医師にご相談ください。

注意



禁止

電池をショートさせたり、分解・加熱をしたり、火や水の中に入れてはいけない

電池の破裂や液漏れにより、火災やケガの原因となることがあります。

乾電池は充電しない

電池の破裂により、ケガの原因となることがあります。

指定以外の電池の使用や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

電池の破裂、液漏れにより、ケガや周囲を汚染する原因となることがあります。



強制

使いきった電池はすぐに交換する

液漏れにより、周囲を汚染する原因となることがあります。

リモコンは、直射日光・高温・多湿の場所を避けて保管する

ケースの変形、内部電池の破裂や液漏れの原因となることがあります。

異常時の問い合わせ

警告



強制

万一異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ず販売店かサービス相談窓口にご相談する

そのまま使用すると、思わぬ事故や火災、感電の原因となります。

目次

はじめに 8

本機の特徴	8
CDメディアに対応	8
USB機器に対応	8
iPodに対応	8
Bluetooth機器に対応	8
高音質再生に対応	8
バッテリー上がりを防ぐために	8
電源のON / OFFと最初の設定	8
リモコンを使う準備	9
電池交換のしかた	9
フロントパネルの取り外しかた / 取り付けかた	9
フロントパネルの取り外しかた	9
フロントパネルの取り付けかた	10
ディスクの入れかた / 取り出しかた	10

基本操作 11

各部のなまえと主な働き	11
本体	11
リモコン	13
ディスプレイ	14
ソース切り換え	14
曲 / チャプターの選択	14
早送り / 早戻し	15
ファンクションメニューの操作	15

CDを聞く 16

タイトルやアーティスト名を表示する	16
リストから曲やフォルダーをさがす	17
繰り返し再生する	17
ランダム再生する	17
再生を一時停止する	18
音を補正して高音質化する	18

ラジオを聞く 18

放送局を手動で登録する	18
放送局名リストから放送局を選ぶ	18
複数の放送局を自動的に登録する	19
放送局名を変更する	19
レバーの動作を設定する	19

USBを聞く 19

リンクプレイで再生する	19
-------------	----

繰り返し再生する	20
タイトルやアーティスト名を表示する	20
リストから曲やフォルダーをさがす	20
聞きたい曲をさがす	20
アルファベットで曲を検索する	21
再生を一時停止する	21
音を補正して高音質化する	21

iPodを聞く 21

聞きたい曲をさがす	21
アルファベットで曲を検索する	21
タイトルやアーティスト名を表示する	22
iPodで選曲して本機から再生する	22
繰り返し再生する	22
シャッフル再生する	22
すべての曲をシャッフルしてから再生する	22
再生中の曲にリンクした曲を再生する	22
再生を一時停止する	23
オーディオブックの再生速度を変更する	23
音を補正して高音質化する	23

アプリを操作する 23

再生する	23
iPhone/iPod touchの場合	23
スマートフォンの場合	24
タイトルやアーティスト名を表示する	24
再生を一時停止する	24
音を補正して高音質化する	24

BT AUDIOを聞く 25

聞きたい曲をさがす	25
再生する	25
再生を停止する	25
音を補正して高音質化する	25
繰り返し再生する	25
違う曲順で再生する	25
再生を一時停止する	25
表示を切り換える	25

Bluetooth機器の 接続 26

Bluetooth接続メニューを使う	26
Bluetooth接続メニューの切り換え	26
接続するBluetooth機器を切り換える	26
登録済みのBluetooth機器を削除する	26
Bluetooth機器を登録する	26
自動接続を設定する	27
Bluetooth機器からの検出状態を設定する	27

本機のパスコードを変更する	27
本機のBluetooth機器情報を確認する	27
機器削除画面自動表示設定をする	28
自動ペアリングを設定する	28

携帯電話を使う 28

電話に出る・電話を切る	28
着信を拒否する	29
PHONEメニューを切り換える	29
履歴から電話をかける	29
電話帳から電話をかける	29
電話機能を設定する	29
自動着信を設定する	29
着信音を設定する	30
電話帳の表示方法を設定する	30

音の調節 30

前後左右の音量バランスを調節する	30
イコライザーカーブを選ぶ	31
イコライザーカーブを調節する	31
小さな音量でも聞きやすくする	31
サブウーファースのOFF/位相切り換え	32
サブウーファースのカットオフ周波数選択とレベル調節	32
低い音を強調する	32
高い音だけ出力する	32
各ソースの音量をそろえる	33

初期/システム設定 33

初期設定メニューを切り換える	33
リア出力を設定する	33
Bluetoothのソフトウェアを更新する	34
システムメニューを切り換える	34
日付を合わせる	34
時計を合わせる	34
本機の使用時間を知らせる	34
時計表示を切り換える	34
フロントパネルの外し忘れを警告する	35
外部機器(AUX)の音声を聞けるようにする	35
BT AUDIOソースをONにする	35
登録したBluetooth機器のデータを消去する	35
Bluetoothのソフトウェアのバージョンを確認する	35
APPソースで接続する機器を選ぶ	35
ステアリングリモコンのキー設定をする	36

その他機能 36

MIXTRAX機能を使う	36
曲の再生時間を切り換える	36

点滅エリアを切り換える	37
点滅パターンを切り換える	37
画面演出を設定する	37
効果音を設定する	37
効果音の効果を設定する	38
背景画面を設定する	38
イルミネーション機能を使う	38
ボタンの色を選ぶ	39
ディスプレイの色を選ぶ	39
ボタンとディスプレイの色を選ぶ	39
ボタンとディスプレイの色を調節する	39
夜間のディスプレイの明るさを切り換える	40
輝度を調節する	40
電話着信時の色を選ぶ	40
イルミネーションをスロー点灯/消灯させる	40
音声認識機能を使う	41

接続/取り付け 41

接続/取り付け上のご注意	41
接続/取り付け部品を確認する	41
本体関係	41
コード関係	41
マイク関係	41
取り付けの前に知ってほしいこと	42
取り付け上のご注意	42
取り付けのポイント	42
接続の前に知ってほしいこと	42
接続上のご注意	42
接続のポイント	42
コネクタ着脱のポイント	42
バッテリー交換時のご注意	42
サブウーファースの接続について	43
タイプ1	43
タイプ2	43
タイプ3	43
タイプ4	43
タイプ5	43
電源コードと周辺機器を接続する	44
本機のスピーカーリード線にリアスピーカーを接続する場合	44
本機のスピーカーリード線にサブウーファースを接続する場合(1)	46
本機のスピーカーリード線にサブウーファースを接続する場合(2)	46
本機のスピーカーリード線にサブウーファースを接続する場合(3)	47
本体を取り付ける	48
フロントパネルの取り外しかた/取り付けかた	48
動作を確認する	48
ハンズフリー用マイクの取り付け	48

困ったときは 50

故障かな?と思ったら.....	50
共通項目	50
ラジオ	50
CD、WMA / MP3 / AAC / WAV	50
AUX.....	51
BT AUDIO.....	51
こんなメッセージが表示されたら.....	51
共通のエラー表示	51
CD、WMA / MP3 / AAC / WAVのエラー表示.....	51
USBのエラー表示.....	52
iPodのエラー表示	52
APPのエラー表示.....	53
Bluetoothのエラー表示.....	53

付録 54

再生可能なメディアとファイルについて	54
メディア内のフォルダー構成について	55
ディスクについて.....	55
取り扱い上のご注意	55
お手入れについて	55
保管上のご注意.....	56
ディスク再生の環境について.....	56
使用できないディスクについて	56
再生できないディスクについて.....	56
USB 機器について	56
本機との接続について	56
保管上のご注意.....	56
iPodについて	56
本機が対応する iPod.....	56
iPodの設定について	57
電波に関するご注意.....	57
保証書とアフターサービス	58
保証書	58
保証期間	58
修理について.....	58
補修用性能部品の最低保有期間.....	58
ご質問、ご相談は.....	58
商標 / 著作権など.....	58
主な仕様.....	60

はじめに

本機の特徴

■ CDメディアに対応

音楽CDのほか、CD-R / CD-RW に収録した圧縮オーディオファイルを再生できます。対応する圧縮フォーマットは、次のとおりです。WMA / MP3 / AAC / WAV
対応するファイルや取り扱い上のご注意について詳しくは、P54 をご覧ください。

■ USB機器に対応

USB ポータブルオーディオプレーヤーやUSB Mass Storage Class 対応のUSB メモリーに収録されたWMA / MP3 / AAC / WAV / FLAC ファイルを再生できます。対応するファイルやUSB機器、接続時のご注意について詳しくは、P56 をご覧ください。

■ iPodに対応

iPodを付属のUSB接続ケーブルで接続して操作できます。本機側からの操作はもちろん、iPod側からの操作も可能で、スムーズな選曲が実現できます。再生中のiPhoneまたはiPod touchのアプリケーションを、本機で操作することもできます。対応するiPodや接続時のご注意について詳しくは、P56 をご覧ください。

■ Bluetooth機器に対応

Bluetooth機器を使ってオーディオ機能を使用したり、携帯電話を使用してハンズフリー通話ができます。

✎ ・本書では便宜上、iPod、iPhoneをiPodと表記しています。

■ 高音質再生に対応

圧縮フォーマットの楽曲の音を補正する「アドバンスド・サウンドレトリバー」機能を搭載しています。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源OFFのときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチをON(またはACC)にしないでください。バッテリーが上がるおそれがあります。



・バッテリー上がりで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットチャンネル(→P18)、カレンダー設定(→P34)、時計(→P34)、オーディオ調整(→P30)などの設定内容は消去されます。消去された場合は、再設定してください。オーディオ調整の設定内容などは、メモしておくことをおすすめします。

電源のON / OFFと最初の設定

本体の取り付け後、初めて電源を立ち上げたときに、セットアップメニューが自動で起動します。

1 セットアップメニューを実行する

ディスプレイに「Set up開始」と表示されたら、ロータリーコマンド(→P11)を回してYESを選び、ロータリーコマンドを押します。



・セットアップメニューを実行しない場合は、ロータリーコマンドを回してNOを選びます。
・NOを選んだときや、約30秒間何も操作せずにセットアップメニューが解除されたときは、今後セットアップメニューでの設定はできません。その場合は、システムメニューで設定してください(→P34)。

2 各メニューを設定する

ロータリーコマンドを回して調節を行い、押して決定します。最後の項目を決定すると、次のようにメニューが切り換わります。

カレンダー設定→時計調整

前のメニューに戻るには、/DISPボタン(→P12)を押します。

3 セットアップメニューを終了する

ディスプレイに「Set up 終了」と表示されたら、ロータリーコマンドを回して「YES」を選び、ロータリーコマンドを押します。

- 設定画面に戻る場合は、ロータリーコマンドを回してNOを選びます。

4 電源をOFFにする

SRC/OFF ボタンを長く押します。
再度、電源をONにする場合は、SRC/OFF ボタン(→P11)を押します。

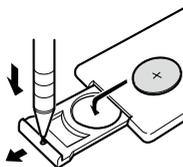
リモコンを使う準備

電池はあらかじめセットされています。電池ホルダー部から出ているフィルムを引き抜いてお使いください。

リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

■ 電池交換のしかた

リモコンを裏返し、電池ホルダーを引き出して古い電池を取り出します。新しいリチウム電池(CR2025)は、+側を上にしてセットします。



- 付属の電池は充電できません。
- リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示(条例)に従って処理してください。
- 本機に付属の電池は、日光や火気など過度の熱が当たる場所に置かないでください。

フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた

盗難抑制のため、フロントパネルを取り外す(デタッチ)ことができます。

- フロントパネルを無理に引いて取り外さないでください。
- 取り外し、取り付けの際に、ディスプレイやボタンを強く持たないでください。
- 落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。故障することがあります。
- 分解しないでください。
- ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。
- 汚れたときは、きれいな乾いた布でふいてください。その際、フロントパネルおよび本体の端子部には触らないでください。接触不良の原因となることがあります。
- 安全のため、停車してからデタッチを行ってください。

■ フロントパネルの取り外しかた

1 デタッチボタン(→P11)を押して、ロックを解除する

2 フロントパネルの右側を上げ(I)、手前に引いて取り外す(II)
フロントパネルが外れます。



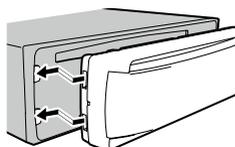
3 フロントパネルを保管する

取り外したフロントパネルは、ケースなどに入れて保管してください。

■ フロントパネルの取り付けかた

1 フロントパネルの左側を本体にあわせる

フロントパネルを本体の左側に確実に合わせてください。

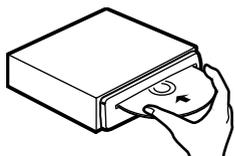


2 フロントパネルの右側を押して、本体に取り付ける



ディスクの入れかた／取り出しかた

1 レーベル面を上にして、CD 挿入口に差し込む



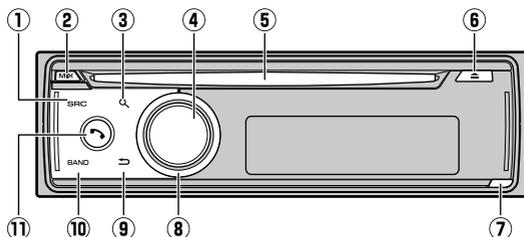
取り出すときは、▲ボタン(→P11)を押します。CDが出てきます。



- CD 挿入口には、CD 以外のものを入れないでください。故障の原因となります。
- 8 cm ディスクには対応しておりません。また、アダプターを装着した 8 cm ディスクも絶対に使用しないでください。
- 出てきたディスクはすぐに取り出して保管してください。CD 挿入口からディスクを出したまま走行すると危険です。
- ▲ボタンを押して CD 再生をやめたときは、自動的に本機の電源が OFF になります。
- 電源が OFF でも、▲ボタンを押して CD を取り出せます。
- ディスクをセットしたまま、電源を OFF にしたりほかのソースに切り換えたりできます。
- CD/CD-R/CD-RW を使用するときのご注意については、P55 をご覧ください。

各部のなまえと主な働き

■ 本体



① SRC/OFF ボタン

押すと、電源がONになります。
長く押すと、電源がOFFになります。
電源ONのときは、押すごとにソースが切り換
わります(→P14)。

- ディスクをCD挿入口に差し込んだり、USBや iPod を接続した場合も、電源がONになります。
- 本機のアンテナコントロール線の接続状態によっ
ては、ラジオが受信できない場合があります
(→P45)。また、オートアンテナ車のアンテナ
を下げる場合は、電源をOFFにしてください。
- 時計を表示させている場合、電源がOFFでもカレ
ンダー、時計を表示します。

② MIXTRAX/TI ボタン

USB / iPod 再生時：
MIXTRAX 機能をONにします(→P36)。

電源OFF時：
長く押すと、高速道路などで放送されている交
通情報を受信します。周波数の切り換えは、レ
バーを左右に回します。

③ Q ボタン

ラジオ受信時：
ステーションリストを表示します。
音楽データ / 圧縮オーディオ / BT AUDIO 再
生時：
曲名、ファイル名、フォルダー名の一覧(トラッ
ク / ファイル / フォルダーリスト)を表示しま
す。

iPod 再生時：

ブラウズモードに切り換わります。
USBでMusicブラウザ機能をONに設定して
いるときは、Musicブラウズモードに切り換わ
ります。ブラウズモードまたはMusicブラウ
ズモード中に押すと、アルファベットサー
チモードに切り換わります。
Musicブラウズモード中に長く押すと、トラッ
ク / ファイル / フォルダーリストに切り換わり
ます。

④ ロータリーコマンドー

左右に回して音量を調整します。
リストやメニュー画面を表示しているときは、
左右に回して項目を選び、押して決定します。

⑤ CD 挿入口

レーベル面を上にして、CDを挿入します。

⑥ ▲ ボタン

挿入したCDが出てきます。

⑦ デタッチボタン

フロントパネルが外れます。

⑧ レバー

ラジオ受信時：
左右に約0.5秒以上回して離すことで、受信可
能な放送局が見つかるまで自動で周波数を送り
ます。
レバーを左右に回し続けた場合は、途中の放送
局を飛ばし、離れたところから自動選局を開始
します。
プリセットチャンネル(登録した放送局)を選ぶ
場合は、ボタンの動作設定を「プリセットチャ
ンネル」に設定します(→P19)。
この場合、プリセット番号順に選局します。

CD / USB / iPod / App再生時:

曲を切り換えます。

左右に約0.5秒以上回して離すと、早送り/早戻しを行います。(USB / iPod / App再生時は、左右に回し続けます。)



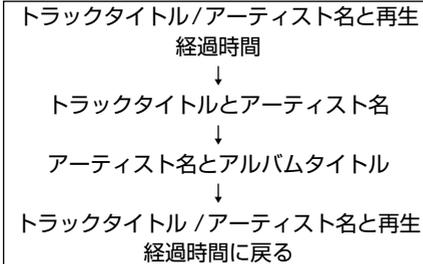
・早送り/早戻ししているときには、音声は出力されません。

⑨ ◀/DISP ボタン

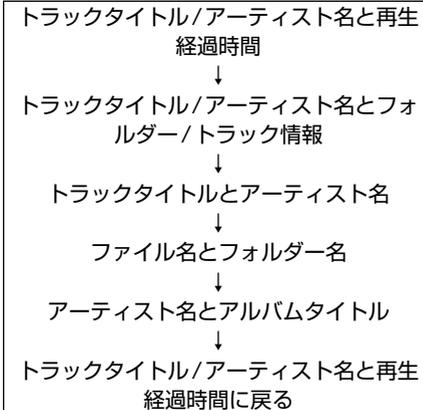
ラジオ以外のソース再生時:

ディスプレイの表示を次のように切り換えます。

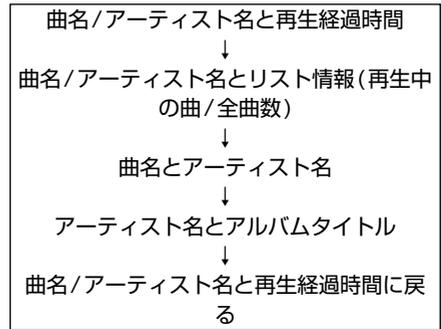
CD (CD TEXT)



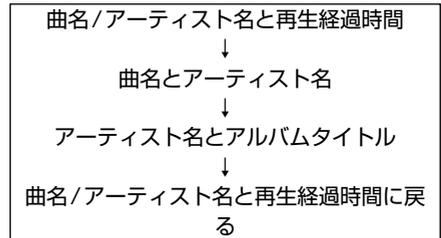
WMA/MP3/AAC/WAV/FLAC ファイル



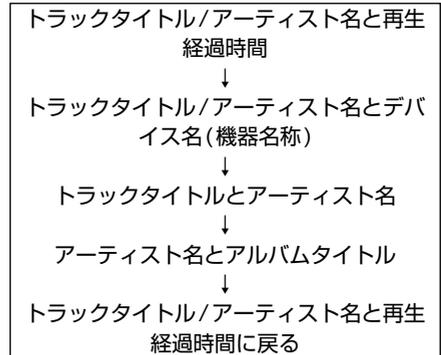
iPod



App



BT AUDIO



CD / USB / iPod / BT AUDIOのリスト表示中:

前のリスト(1つ上の階層のフォルダー)または、ふだんの画面に戻ります。

長く押すとフォルダー01 (ROOT)に戻ります。フォルダー01 (ROOT)にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。

圧縮オーディオ / USB / iPodのリスト表示中:

長く押すと、最上位の階層に戻ります。

メニュー画面や項目リストのアルファベット検索画面を表示しているとき：

1つ前の画面に戻ります。



- ディスプレイの表示を変えられない場合もあります。
- VBR (可変ビットレート) で録音されたファイルを早送り／早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。
- 本機の文字表示は、ひらがなや漢字などにも対応しています。
- タイトル名などが収録されていないディスクで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。
- ファイルをエンコード／ライティングしたアプリケーションによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- WMP11 を使用して WAV ファイルをエンコードしたときに、WAV ファイルのファイル名などを表示できません。
- 音楽データや WMA / MP3 / AAC / WAV ディスク以外では、タイトルは表示しません。
- MP3 ファイルや AAC ファイルをライティングした iTunes のバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- 本機が表示できない文字が iPod に記録されている場合、その文字は表示されません。
- USB を Music ブラウズモードで使用しているときは、ファイル名とフォルダー名は表示しません。

MIXTRAX 演出画面を表示中：

表示を一時解除し、通常の画面表示に切り換えます。

⑩ BAND/ ↻ ボタン

ラジオ受信時：

バンドを次のように切り換えます。

FM-1 → FM-2 → AM-1 → AM-2 → FM-1 に戻る

放送局リストを表示している場合は、ふだんの受信画面に戻ります。

CD / USB / iPod のリスト表示中：

ふだんの再生画面に戻ります。

音楽データと圧縮オーディオファイルが混在した CD の再生時：

再生するファイルを切り換えます。切り換え後は、それぞれ先頭の曲から再生します。

マストレージクラス対応のメモリデバイスが複数ある USB の再生時：

再生するメモリデバイスを切り換えます。切り換えられるメモリデバイスの数は 32 までです。

iPod 再生時：

「コントロールモード」の設定を切り換えます (→ P22)。

App ソース時：

iPhone または iPod touch のアプリケーションで再生中の曲を、一時停止します。もう一度押すと、再生が再開します。

メニュー画面を表示しているとき：

メニューを解除します。(初期設定メニューや電源 OFF の状態から操作したシステムメニューを解除すると、電源が OFF になります。)

BT AUDIO ソース時：

ふだんの再生画面で押すと、再生中の曲が一時停止します。もう一度押すと、再生が再開します。

⑪ ↻ ボタン

ソース再生時：

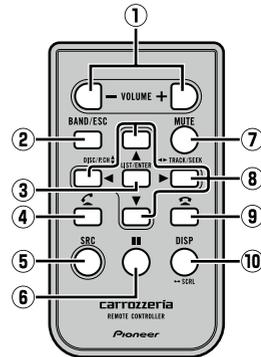
押すと PHONE メニューを表示します

(→ P29)。長く押すと、Bluetooth 接続メニューを表示します (→ P26)。

ハンズフリー着信時 / 通話時：

長く押すと着信を拒否 / 押すと通話を切断します (→ P29)。

■ リモコン



① VOLUME ボタン

音量を調整します。

② BAND/ESC ボタン

本体の⑩と同じ動きをします。

③ LIST/ENTER ボタン

本体の③と同じ動きをします。

④ OFF HOOK ボタン

ハンズフリー着信時に押すと、電話がつながります。

⑤ SRC(SOURCE) ボタン

本体の①と同じ働きをします。

⑥ ||(ポーズ) ボタン

再生を一時停止します。

⑦ MUTE ボタン

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音を消せます。

もう一度押すと、解除されます。

⑧ ▲/▼/◀/▶ボタン

◀/▶ボタンはCD/USB/iPod再生時に、本体の⑧と同じ働きをします。

▲/▼ボタンは各種メニューの項目でリストを選択できます。▶ボタンで項目を決定、◀ボタンで前の画面に戻ります。

⑨ ON HOOK ボタン

ハンズフリー着信時に長く押すと、着信を拒否します。

⑩ DISP/SCRL ボタン

本体の⑩と同じ働きをします。(ただし、前画面へは戻りません。)

■ ディスプレイ

ソース表示部



画面例 (ソースによって表示は異なります。)

① ソースインジケータ

選択されたソース名を表示します。

② 情報表示部 1

トラック番号(オーディオCD/App)、ビットレート(WMA/MP3/AAC)、サンプリング周波数(WAV/FLAC)、App名を表示します。

③ 情報表示部 2

バンドや周波数(ラジオ)、ステレオインジケータ、プリセットチャンネル番号、再生中の曲のタイトル、アーティスト名、曲番号やリスト収録曲数(iPod)、各種メニュー設定内容などを表示します。

④ 情報表示部 3

再生経過時間、トラック番号とフォルダー番号(WMA/MP3/AAC/FLAC)を表示します。

リスト表示



(画面例)

① ハイライト表示

選んでいる項目は、ハイライト表示されます。

② 反転表示

再生中の項目(トラックやフォルダー)、受信中の項目(放送局や周波数の表示)は、枠付きの文字で表示されます。

ソース切り換え

CDやラジオなどの音源を切り換えます。

1 本機の電源をONにする (→P8)

2 ソースを切り換える

SRC/OFF ボタンを押すごとに次の順序で切り換わります。

ラジオ(FM/AM)→CD→USB/USB
MTP/iPod→APP (iPhone/iPod touch App)
アプリケーションまたはスマートフォンアプリケーション→AUX(外部機器)(別売)→BT
AUDIO (Bluetooth オーディオ)→ラジオ
(FM/AM)に戻る



- ・次の場合、該当のソースには切り換わりません。
 - 対応する機器を接続していない
 - ディスクをセットしていない
 - AUXソースをOFFにしている (→P35)

曲/チャプターの選択

次の曲/チャプターを選ぶ

レバーを右に回します。

前の曲を選ぶ

レバーを左に回します。

早送り／早戻し

早送りする

CDソースの場合

レバーを右に0.5秒以上回して離します。

USB／iPod／Appソースの場合

レバーを右に回し続けます。

早戻しする

CDソースの場合

レバーを左に0.5秒以上回して離します。

USB／iPod／Appソースの場合

レバーを左に回し続けます。

- 圧縮オーディオファイルを早送り／早戻ししているときには、音声は出力されません。
- VBR(可変ビットレート)で録音されたファイルを早送り／早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。

ファンクションメニューの操作

現在選択中のソースに応じた詳細設定をすることができます。

1 ファンクションメニューを表示する

電源ONの状態で、ロータリーコマンドーを押します。

ロータリーコマンドーを回してFUNCTIONを選び、押します。

2 機能を選ぶ

ロータリーコマンドーを回すごとに機能が切り換わります。押すと決定または設定値が変更されます。

CDの場合

[再生範囲切換] ⇄ [ランダムプレイ設定] ⇄ [ポーズ設定] ⇄ [サウンドレトリバー設定]

ラジオの場合

[BSM設定] ⇄ [放送局名選択] ⇄ [チューニングモード]

USBの場合

[再生範囲切換] ⇄ [ランダムプレイ設定] ⇄ [リンクプレイ] ⇄ [ポーズ設定] ⇄ [サウンドレトリバー設定] ⇄ [Musicブラウザ設定]

iPodの場合

[再生範囲切換] ⇄ [シャッフル設定] ⇄ [シャッフルオール設定] ⇄ [リンクプレイ] ⇄ [ポーズ設定] ⇄ [オーディオブック] ⇄ [サウンドレトリバー設定]

Appの場合

[オーディオデバイス選択] ⇄ [ポーズ設定] ⇄ [サウンドレトリバー設定]

BT AUDIOの場合

[オーディオデバイス選択] ⇄ [再生] ⇄ [停止] ⇄ [ポーズ設定] ⇄ [Repeat] ⇄ [Random] ⇄ [サウンドレトリバー設定]

機能名	動作内容
再生範囲切換	曲を繰り返し(リピート)再生できます(→P17)。繰り返しの範囲は、いま聞いている曲やディスク全体などから選べます。選べる範囲は、ソースやディスクによって異なります(→P17、P20、P22)。操作方法はCD、USB、iPodで共通です。
ランダムプレイ設定	再生範囲切換で選んだ範囲で曲を順不同(ランダム)に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。操作方法はCD、USBで共通です。
リンクプレイ	再生中の曲にリンクしたリストの曲を再生します。現在の曲の再生が終わると、リンクした曲に切り換わります(→P19)。操作方法はUSB、iPodで共通です。USBの場合は、Musicブラウザ設定(→P15)を、「ON」に設定しないと表示されません。
ポーズ設定	曲の再生を一時停止できます(→P18)。操作方法はCD、USB、iPod、App、BT AUDIOで共通です。
サウンドレトリバー設定	デジタル信号処理を用いて圧縮音楽の音質を補正する機能です。失われた音を補間して、高音質再生を実現します(→P18)。操作方法はCD、USB、iPod、App、BT AUDIOで共通です。
Musicブラウザ設定	USB機器を使用しているときに、項目別リストから曲をさがしたり、再生中の曲にリンクした曲を再生したりできます(→P19、P20)。

機能名	動作内容
BSM設定	受信状態の良い放送局を自動でさがして登録できます。登録された放送局は、手軽に受信できます(→P19)。
放送局名選択	表示される放送局名を選べます(→P18)。
チューニングモード	ラジオソース時のレバー動作を設定できます(→P19)。
シャッフル設定	曲やアルバムを順不同(ランダム)に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です(→P22)。
シャッフルオール設定	iPodのミュージックライブラリ内のすべての曲を順不同(ランダム)に再生できます(→P22)。
オーディオブック	オーディオブックの再生中に、オーディオブックの再生速度を変更できます(→P23)。
オーディオデバイス選択	接続する機器を選びます。
再生	再生がはじまります。
停止	再生が停止します。
Repeat	繰り返し再生する範囲を設定します。
Random	ランダムに再生する範囲を設定します。

CDを聞く

- 本機は、挿入されたディスクからファイル形式などの情報を読みとります。この間、画面には「FORMAT READ」と表示されます。

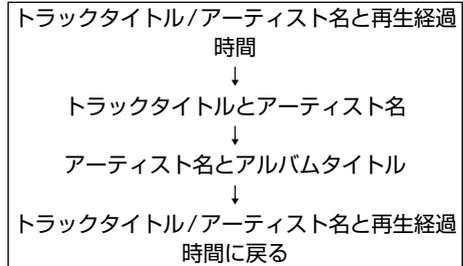
タイトルやアーティスト名を表示する

トラックタイトルやディスクタイトル、アーティスト名などを表示できます。

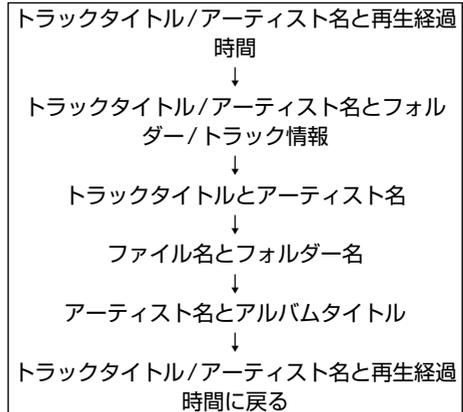
- 操作が終了したら、BAND/  ボタンを押してください。ふだんの再生画面に戻ります。

1 表示を切り換える

 /DISP ボタンを押すごとに切り換わります。
CD TEXTを再生しているとき



WMA / MP3 / AAC / WAVを再生しているとき





- 表示を切り換えている場合は、ディスクを挿入したときや、ソースをCDに切り換えたときなどに、タイトルを自動的にスクロール表示します。
- 本機の文字表示は、ひらがなや漢字などにも対応しています。
- タイトル名などが収録されていないディスクで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。
- CD-R / CD-RW ディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、表示されない場合があります。(音楽データ (CD-DA) 再生時)
- ファイルをエンコード / ライティングしたアプリケーションによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- VBR (可変ビットレート) で録音されたファイルを早送り / 早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されない場合があります。
- WMP11 を使用して WAV ファイルをエンコードしたときに、WAV ファイルのファイル名などを表示できます。
- [CD-TEXT] や [CD-ROM] など、文字情報が記録されたディスク以外では、タイトルは表示されません。
- MP3 ファイルや AAC ファイルをライティングした iTunes のバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されない場合があります。

リストから曲やフォルダーをさがす

音楽データ (CD-DA) や圧縮オーディオの再生中に、曲名、ファイル名、フォルダー名の一覧 (トラック / ファイル / フォルダーリスト) を見ながら、聞きたい曲、ファイル、フォルダーを選べます。

1 トラック / ファイル / フォルダーリストを表示する

🔍 ボタンを押します。

2 トラック番号、曲名、ファイル名、フォルダー名を切り換える

ロータリーコマンドを回します。

3 フォルダー内のフォルダー / ファイルを表示する

フォルダー表示時に、ロータリーコマンドを押します。

再生したいトラック / 曲 / ファイルが見つかったら、ロータリーコマンドを押します。



- フォルダーが表示されているときにロータリーコマンドを長く押し、そのフォルダー内のはじめの曲から再生されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、[NO FILES] と表示されます。

繰り返し再生する

1 ファンクションメニューから [再生範囲切換] を選ぶ (→ P15)

2 再生範囲を切り換える

ロータリーコマンドを押すごとに切り換わります。

CD を再生しているとき

[Track repeat (トラックリピート)] ⇔ [Disc repeat (ディスクリピート)]

WMA / MP3 / AAC / WAV を再生しているとき

[Track repeat] → [Folder repeat] → [Disc repeat] → [Track repeat] に戻る

機能名	動作内容
Disc repeat	いま聞いているディスクを繰り返し再生する。
Track repeat	いま聞いている曲を繰り返し再生する。
Folder repeat	いま聞いているフォルダーを繰り返し再生する。



- 選んだ再生範囲は、「ランダムプレイ設定」の再生範囲に影響します。
- [Folder repeat] は、再生中のフォルダー内の曲だけを再生します。サブフォルダー内の曲は、再生しません。

ランダム再生する

1 ファンクションメニューから [ランダムプレイ設定] を選ぶ (→ P15)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドを押すと、次の曲からランダムに再生されます。もう一度押しと OFF になります。



- 再生範囲がトラックリピートのときにランダムプレイ設定を ON にすると、再生範囲が次のように切り換わります。
 - CD: ディスクリピート
 - 圧縮オーディオファイル: フォルダーリピート
- ランダムプレイ中に曲を変更する場合は、レバーを右に回して切り換えてください。レバーを左に回すと、再生中の曲の先頭に戻ります。

再生を一時停止する

1 ファンクションメニューから[ポーズ設定]を選ぶ(→P15)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドを押すと、一時停止します。もう一度押すと再生を再開します。

音を補正して高音質化する

1 ファンクションメニューから[サウンドレトリバー設定]を選ぶ(→P15)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドを押すごとに切り換わります。

[OFF] → [1] → [2] → [OFF] に戻る



- 1は低圧縮率の音声、2は高圧縮率の音声に適しています。
- サウンドレトリバーの設定値は、MIXTRAX機能がONの状態とOFFの状態では別々に記憶されます。MIXTRAX機能をONに設定した場合は(→P36)、改めて上記の操作を行ってください。

ラジオを聞く

放送局を手動で登録する

よく聞く放送局を1局ずつ手動で登録できます(プリセットチャンネル)。登録した放送局は、手軽に受信できます。

1 登録するバンド、登録したい放送局を選ぶ(→P13)

2 ステーションリストを表示する

Qボタンを押します。

3 登録したいプリセット番号を選ぶ

ロータリーコマンドを回して、1~6の中から選びます。

4 放送局を登録する

ロータリーコマンドを長く押します。

登録動作中に押したプリセット番号(登録番号)が点滅します。

登録が完了するとプリセット番号の点滅が終わり、その放送局を受信します。

放送局名リストから放送局を選ぶ

1~6のプリセット番号に登録した放送局を、放送局名の一覧(ステーションリスト)の中から選ぶことができます。

1 バンドを選ぶ(→P13)

2 ステーションリストを表示する

Qボタンを押します。

3 放送局を選ぶ

ロータリーコマンドを回します。

4 選んだ放送局を受信する

ロータリーコマンドを押します。



- リスト表示については、P14をご覧ください。
- 表示されている放送局名が受信している放送局と異なる場合、放送局名を変更できます(→P19)。
- 放送局名が登録されていない放送局の場合、周波数が表示されます。

複数の放送局を自動的に登録する

1 登録するバンドを選ぶ(→P13)

2 ファンクションメニューから [BSM 設定] を選ぶ(→P15)

3 自動登録を開始する

ロータリーコマンドを押します。

登録が完了すると、ステーションリストに切り換わり、プリセット番号 1 に登録された放送局を受信します。

- BSMとは、「Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー)」の略です。
- 登録動作中にロータリーコマンドを押すと、BSMの登録処理を途中でやめることができます。

放送局名を変更する

本機に登録されている放送局名に変更できます。

1 ファンクションメニューから [放送局名選択] を選ぶ(→P15)

2 放送局を選ぶ

ロータリーコマンドを回します。

3 放送局を変更する

ロータリーコマンドを押します。

- 本機に登録されていない放送局名は選べません。
- 放送局を表示させたくないときは、すべて空白の表示を選びます。
- 選んだ周波数に該当する放送局が登録されていない場合、「放送局データなし」と表示されます。

レバーの動作を設定する

1 ファンクションメニューから [チューニングモード] を選ぶ(→P15)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドを押すごとに切り換わります。

[マニュアル シーク] ⇄ [プリセット チャンネル]

機能名	動作内容
マニュアル シーク	手動で選局する。
プリセット チャンネル	登録した放送局を切り換える。

USBを聞く

- 本機は、接続されたUSB機器から情報を読み取ります。この間、画面には、「FORMAT READ」と表示されます。USB機器の情報量によっては、再生までに時間がかかる場合があります。
- USB機器にバッテリー充電機能がある場合、エンジンスイッチがACCまたはONIになっているときにUSB機器のバッテリーが充電されます。
- USB機器を接続したまま、電源をOFFにしたり他のソースに切り換えることができます。
- USB機器は、いつでも取り外すことができます。
- USB機器を取り外すことで、再生を終了することもできます。
- MTP対応のAndroid機器(Android OS 4.0以上搭載)は、USBソースでMTP接続ができます。ただし、Musicブラウザ機能は使用できません(「Musicブラウザ設定」が自動的に「OFF」になります)。
Android機器に付属のケーブルを使って接続します。
- 接続した機器、機器に保存してあるファイル数やオーディオファイルによっては、再生できない場合があります。

リンクプレイで再生する

再生中の曲にリンクした曲を、以下のリストから再生できます。

- 再生中のアーティストのアルバムリスト
- 再生中のアルバムに収録されている曲のリスト
- 再生中のジャンルのアルバムリスト (Musicブラウズモード)

- データベースを構築します。保存されたファイルの数によっては時間がかかる場合があります。
- リンクのサーチ条件に関連したリストがない場合は、「見つかりません」と表示されます。

1 ファンクションメニューから [Musicブラウザ設定] を選ぶ(→P15)

2 設定をONにする

ロータリーコマンドを押すごとに [ON] ⇄ [OFF] が切り換わります。

- Musicブラウザ機能をONにしているときは、次の機能が使用できません。
 - フォルダー選択
 - ROOTフォルダー戻し
 - フォルダーリピート

3 本機にデータベースを構築する

確認メッセージで [Yes] を選びます。

- データベース、またはリスト構築中は、キーが効かないことがあります。

4 USBにデータベースを保存する

確認メッセージで [Yes] を選びます。

- 保存しない場合は [No] を選びます。
- ACCをOFFにすると本機のデータベース情報が消去されます。USBにデータベース情報を保存すると、本機は手順3でUSBに保存されたデータベース情報を読み出すため、処理速度が速くなります。
- USB内ファイルとUSB内データベース情報が異なる場合は、データベースを再構築する必要があります。再構築するかどうかのメッセージが表示されます。

5 ファンクションメニューから [リンクプレイ] を選ぶ (→P15)

6 リンクのサーチ条件を切り換える

ロータリーコマンドを回すごとに切り換わります。

[アーティスト] ⇄ [アルバム] ⇄ [ジャンル]

7 リンクのサーチ条件を選ぶ

ロータリーコマンドを押します。現在の曲の再生が終わると、リンクした曲に切り換わります。

- リンクプレイ以外の操作を行うと、リンクプレイでの選択結果が解除される場合があります (例: 早送り/早戻し)。
- 曲によっては、切り換わる際に終わりや始まりの音が切れる場合があります。

繰り返し再生する

操作方法はCDの場合と同じです (→P17)。

切り換わる範囲は以下の通りです。

[ALL repeat] → [Track repeat] → [Folder repeat] → [ALL repeat] に戻る

機能名	動作内容
ALL repeat	すべての曲を繰り返し再生する。
Track repeat	いま聞いている曲を繰り返し再生する。
Folder repeat	いま聞いているフォルダーを繰り返し再生する。

タイトルやアーティスト名を表示する

操作方法はCDの場合と同じです (→P16)。

- Musicブラウズモードで使用しているときは、ファイル名とフォルダー名は表示しません。

リストから曲やフォルダーをさがす

操作方法はCDの場合と同じです (→P17)。

聞きたい曲をさがす

アーティスト、アルバム、曲、ジャンルの項目別リストからお好みの曲を選んで再生できます (Musicブラウズモード)。

- アーティスト、アルバム、曲、ジャンルの各項目から検索するために、データベースを構築します。データベースの構築には、1 000曲あたり70秒程度の時間がかかります。通常は、3 000曲程度を推奨します。ファイルによっては、さらに時間がかかる場合があります。
- 保存してあるファイルの数によっては、リストの表示に時間がかかる場合があります。

1 Musicブラウザ設定をONにする

操作方法は、リンクプレイ再生操作の手順④と同じです (→P19)

2 Musicブラウズモードにする

Qボタンを押します。

3 項目を選ぶ

ロータリーコマンドを回します。押すと決定します。

必要に応じて項目を絞り込んでください。

再生したい曲が見つかったら、ロータリーコマンドを押します。

- アルファベット順に表示する項目のときに、ボタンを押すと、アルファベットサーチモードになります (→P21)。
- 再生したい項目を選んでいときにロータリーコマンドを長く押しと、その項目内の曲を最初からすべて再生できます。

アルファベットで曲を検索する

項目別リスト表示中に、頭文字のアルファベットを指定して検索できます。

- アルファベット順に表示されるリストのときに操作できます。
- 頭文字が、半角のアルファベットまたは数字で記録されているものが対象です。

1 タイトルやアーティスト名などのリストを表示する (→P20)

2 アルファベットサーチモードに切り換える

リスト表示中に**Q**ボタンを押します。
もう一度**Q**ボタンを押すと、アルファベットサーチモードを解除します。

- ロータリーコマンドを2回連続で回して、入力画面を表示することもできます。

3 検索したいアルファベットを表示する

ロータリーコマンドを回してアルファベットを選び、押します。選んだアルファベットを先頭にして、リストが表示されます。

- 対象となる曲がなかったときは、「Not found」が表示されたあとリスト表示に戻ります。

再生を一時停止する

操作方法はCDの場合と同じです (→P18)。

音を補正して高音質化する

操作方法はCDの場合と同じです (→P18)。

iPodを聞く

- iPhone/iPod touch 以外では、再生範囲が1曲リビートのときは、レバーを回して曲を選ぶことはできません。
- iPodには指定のケーブルのみを接続してください (→P56)。指定のケーブル以外のものを接続すると、本機が正常に動作しないことがあります。
- 本機に接続する前に、iPodからヘッドホンを外してください。
- iPodを使用するときのご注意やiPodの設定については、P57をご覧ください。
- iPodを接続したまま、他のソースに切り換えることができます。
- iPodは、いつでも取り外すことができます。
- エンジンスイッチがACCまたはONになっている場合、iPodのバッテリーが充電されます。
- iPodの電源をOFFにするには、ケーブルを取り外します。

聞きたい曲をさがす

プレイリスト、アーティスト、アルバム、曲、Podcast (ポッドキャスト)、ジャンル、作曲家、オーディオブックの項目別リストから、お好みの曲を選んで再生できます。(ブラウズモード)

- iPodに保存してあるファイルの数によっては、項目の表示に時間がかかる場合があります。
- 本機が表示できない文字がiPodに記録されている場合、その文字は表示されません。

1 ブラウズモードにする

Qボタンを押します。

2 項目を選ぶ

ロータリーコマンドを回します。押すと決定します。

必要に応じて項目を絞り込んでください。
再生したい曲が見つかったら、ロータリーコマンドを押します。

- アルファベット順に表示する項目のときに、**Q**ボタンを押すと、アルファベットサーチモードになります (→P21)。
- 再生したい項目を選んでいるときにロータリーコマンドを長く押しすと、その項目内の曲を最初からすべて再生できます。

アルファベットで曲を検索する

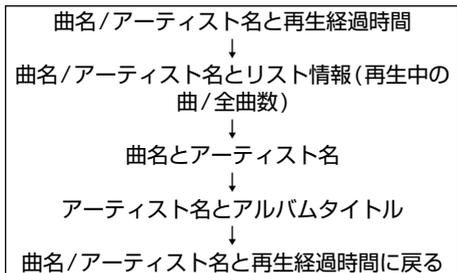
操作方法はUSBの場合と同じです (→P21)

タイトルやアーティスト名を表示する

操作方法はCDの場合と同じです(→P16)。

- 操作が終了したら、BAND/  ボタンを押してください。ふだんの再生画面に戻ります。

切り換わる内容は以下の通りです。



- 本機の文字表示は、ひらがなや漢字などにも対応しています。
- 本機が表示できない文字がiPodに記録されている場合、その文字は表示されません。

iPodで選曲して本機から再生する

選曲などの操作を、本機とiPodのどちらでするか切り換えられます(コントロールモード)。

- 対応iPodについては、P56をご覧ください。

1 コントロールモードを切り換える

BAND/  ボタンを押すごとに切り換わります。
[AUDIO] ⇔ [iPod]

機能名	動作内容
AUDIO	本機で選曲などの操作をする。
iPod	iPodで選曲などの操作をする。

- iPodに設定した場合は、以下の制限があります。
 - ファンクションメニューは、ポーズ設定とサウンドレトリバー設定以外は選択できません。
 - ブラウズモード(→P21)には切り換わりません。
 - 音量は本機からしか調節できません。
- iPodに設定すると、再生は停止されます。iPodを操作して、再生してください。
- コントロールモードをiPodに設定していても、本機から次の操作ができます。
 - タイトルの表示切り換え
 - 一時停止
 - 選曲
 - 早送り/早戻し

繰り返し再生する

操作方法はCDの場合と同じです(→P17)。

切り換わる範囲は以下の通りです。

[Repeat One] ⇔ [Repeat All]

機能名	動作内容
Repeat One	いま聞いている曲を繰り返し再生する。
Repeat All	いま聞いているリスト内のすべての曲を繰り返し再生する。

シャッフル再生する

1 ファンクションメニューから[シャッフル設定]を選ぶ(→P15)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドを押すごとに切り換わります。

[Shuffle OFF] → [Shuffle Songs] →

[Shuffle Albums] → [Shuffle OFF] に戻る

機能名	動作内容
Shuffle OFF	ランダムに再生しない。
Shuffle Songs	いま聞いているリスト内の曲をランダムに再生する。
Shuffle Albums	アルバムをランダムに選び、選んだアルバム内の曲を順番通りに再生する。

すべての曲をシャッフルしてから再生する

1 ファンクションメニューから[シャッフルオール設定]を選ぶ(→P15)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドを押すと「ON」が2秒間表示され、全曲シャッフル再生が始まります。

- 全曲シャッフルを解除するには、「シャッフル設定」で「Shuffle OFF」を選びます(→P22)。

再生中の曲にリンクした曲を再生する

操作方法はUSBの場合と同じです(→P19)。

再生を一時停止する

操作方法はCDの場合と同じです(→P18)。

オーディオブックの再生速度を変更する

✎ 操作が終了したら、BAND/ボタンを押してください。ふだんの再生画面に戻ります。

1 ファンクションメニューから[オーディオブック]を選ぶ(→P15)

2 再生速度を切り換える

ロータリーコマンドを押すごとに切り換わります。

[標準] → [やや速い] → [やや遅い] → [標準] に戻る

機能名	動作内容
標準	標準速度で再生する。
やや速い	やや速い速度で再生する。
やや遅い	やや遅い速度で再生する。

音を補正して高音質化する

操作方法はCDの場合と同じです(→P18)。

アプリを操作する

iPhone/iPod touchまたはスマートフォンのアプリケーションを再生中に、本機でコントロールできます。本機に接続したiPhoneまたはiPod touchでアプリケーションの操作を行い、曲を再生状態にします。Appソースに切り換えた後(→P14)、本機のボタン(→P11)でコントロールします。

- ✎
- 対応アプリケーションの情報については、カロッツェリアホームページ (<http://carrozzeria.jp>) でご確認ください。
 - iOSが5.0未満の場合、画面に表示される曲情報が正しくない場合があります
 - iPhone/iPod touchまたはスマートフォンのアプリケーションの仕様によっては、本機の画面に表示できない場合があります。
 - iPhone/iPod touchには指定のケーブルのみを接続してください(→P56)。指定のケーブル以外のものを接続すると、本機が正常に動作しないことがあります。
 - 本機に接続する前に、iPhone/iPod touchからヘッドホンを外してください。
 - iPhone/iPod touchを使用するときのご注意やiPhone/iPod touchの設定については、P56をご覧ください。
 - iPhone/iPod touchを接続したまま、本機の電源をOFFにしたり他のソースに切り換えたりできません。
 - iPhone/iPod touchは、いつでも取り外すことができます。
 - エンジンスイッチがACCまたはONになっている場合、iPhone/iPod touchのバッテリーが充電されます。
 - iPhone/iPod touchの電源をOFFにするには、iPod用USB変換ケーブルを取り外します。
 - スマートフォンにはAndroid OS 2.3以上の搭載が必要です。
 - スマートフォンにはBluetoothのプロファイルSPP、A2DPの搭載が必要です。本機とはBluetoothを使って接続します(→P26)。

再生する

■ iPhone/iPod touchの場合

ケーブルで本機と接続し、iPhone/iPod touchを操作して曲を再生状態にした後、本機でコントロールします。

1 APP接続設定を[Wired]に切り換える(→P35)

2 APPソースに切り換える

(→P14)

再生が始まります。

•コントロールは本機のボタンで行います。

■スマートフォンの場合

本機とBluetooth接続し(→P26)、スマートフォンを操作して曲を再生状態にした後、本機でコントロールします。

1 APP接続設定を [Bluetooth]に切り換える (→P35)

2 APPソースに切り換える

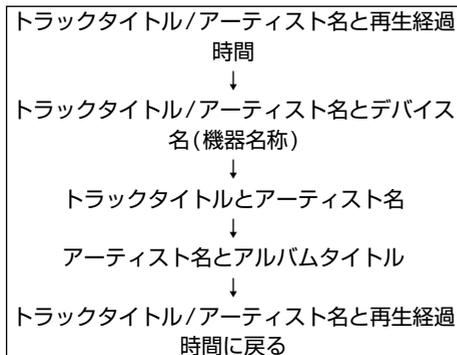
(→P14)

再生が始まります。

•コントロールは本機のボタンで行います。

タイトルやアーティスト名を表示する

操作方法はCDの場合と同じです(→P16)。
切り換わる範囲は以下の通りです。



再生を一時停止する

ファンクションメニューを使って一時停止する方法です。

1 ファンクションメニューから [ポーズ設定]を選ぶ (→P15)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドを押すと、一時停止します。もう一度押すと再生を再開します。

音を補正して高音質化する

操作方法はCDの場合と同じです(→P18)。

BT AUDIOを聞く

本機では、Bluetooth機器を使って、Bluetoothオーディオ機能を使用できます。

- Bluetooth対応機器を本機のBT AUDIOソースとして初めて使用する場合、あらかじめBluetooth対応機器を本機に登録しておく必要があります(→P26)。
- BT AUDIOでは、以下のBluetoothプロファイルに対応しています。
 - A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)
 - AVRCP (Audio/Video Remote ControlProfile) ver. 1.5
- iPodソースのときには、Bluetoothオーディオ(A2DP)の接続はできません。
- 接続するBluetooth機器によっては、操作や動作が異なる場合があります。Bluetooth機器の説明書も併せてご覧ください。

聞きたい曲をさがす

- 接続するBluetooth機器によっては、リスト表示しない場合があります。

1 ブラウズモードにする

Qボタンを押します。

2 項目を選ぶ

ロータリーコマンドを回します。押すと決定します。

必要に応じて項目を絞り込んでください。
再生したい曲が見つかったら、ロータリーコマンドを押します。

再生する

1 ファンクションメニューから[再生]を選ぶ(→P15)

2 再生を開始する

ロータリーコマンドを押します。

再生を停止する

1 ファンクションメニューから[停止]を選ぶ(→P16)

2 再生を停止する

ロータリーコマンドを押します。

音を補正して高音質化する

操作方法はCDの場合と同じです(→P18)。

繰り返し再生する

1 設定を切り換える

ロータリーコマンドを押します。もう一度押すと解除されます。

違う曲順で再生する

1 設定を切り換える

ロータリーコマンドを押します。もう一度押すと解除されます。

- 接続したBluetooth機器により、再生範囲が異なる場合があります。
- ランダムプレイ中に曲を変更する場合は、レバーを右に回して切り換えてください。レバーを左に回すと、再生中の曲の先頭に戻ります。

再生を一時停止する

操作方法はCDの場合と同じです(→P18)。

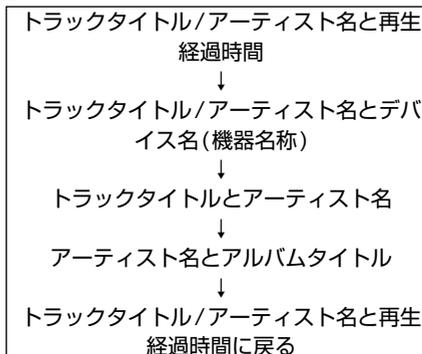
表示を切り換える

トラックタイトルやアーティスト名などを表示できます。

- 操作が終了したら、BAND/🔊ボタンを押してください。ふだんの再生画面に戻ります。

1 表示を切り換える

🔄/DISPボタンを押すごとに切り換わります。



- 接続するBluetooth機器やファイルにより、表示が異なる場合があります。

Bluetooth 機器の接続

BT AUDIOを聞いたり、ハンズフリー操作をしたり、スマートフォンでアプリ操作をするには、Bluetooth接続が必要です。接続する機器側の操作方法については、接続する機器の説明書をご覧ください。

- Bluetooth機器の登録は、接続する機器側から本機を検出して簡単に行うことができます。
- 本機は、以下のBluetoothプロファイルに対応しています。
 - GAP (Generic Access Profile)
 - OPP (Object Push Profile)
 - HFP (Hands Free Profile) ver. 1.6
 - PBAP (Phone Book Access Profile)
 - A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)
 - AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile) ver. 1.5
 - SPP (Serial Port Profile) ver. 1.1

Bluetooth 接続メニューを使う

- 操作や設定が終了したら、**BAND/** ボタンを押してください。ふだんの再生画面に戻ります。

Bluetooth 接続メニューの切り換え

1 Bluetooth 接続メニューを表示する

Bluetooth ボタンを長く押しします。

2 機能を選ぶ

ロータリーコマンドナーを回すごとに切り換わります。押すと決定または設定値が変更されます。**[デバイスリスト]** ⇄ **[デバイス削除]** ⇄ **[追加デバイス]** ⇄ **[自動接続設定]** ⇄ **[検出可能]** ⇄ **[パスコード編集]** ⇄ **[デバイス情報]** ⇄ **[機器削除]** ⇄ **[自動ペアリング設定]**

- Bluetooth機器が登録されていない場合、「デバイスリスト」と「デバイス削除」は表示されません。

接続するBluetooth 機器を切り換える

Bluetooth機器を複数台登録している場合、登録済みのBluetooth機器をリスト表示して、接続先を切り換えます。

1「Bluetooth 接続メニューの切り換え」を参照して**[デバイスリスト]**を選ぶ(→P26)

2 接続するBluetooth 機器を選ぶ

ロータリーコマンドナーを回します。

- ロータリーコマンドナーを長く押しすと、デバイス名(機器名称)とデバイスアドレスを切り換えることができます。

3 接続先を切り換える

ロータリーコマンドナーを押します。切り換わったBluetooth機器に、*が表示されます。

- Bluetooth機器は、2台まで同時に接続できます。

登録済みのBluetooth 機器を削除する

- 本機能の操作中は、エンジンスイッチをOFFにしないでください。

1「Bluetooth 接続メニューの切り換え」を参照して**[デバイス削除]**を選ぶ(→P26)

2 削除するBluetooth 機器を選ぶ

ロータリーコマンドナーを回します。

- ロータリーコマンドナーを長く押しすと、デバイス名(機器名称)とデバイスアドレスを切り換えることができます。

3 削除する

ロータリーコマンドナーを押します。確認画面が表示されます。

- 操作を中止する場合は、**ESC**/DISP ボタンを押します。前の画面に戻ります。

4 削除を確定する

ロータリーコマンドナーを押します。メッセージの表示とともに、選んだBluetooth機器が削除されます。

Bluetooth 機器を登録する

Bluetooth機器を使うには、本機にBluetooth機器を登録する必要があります。3台まで登録できます。

1「Bluetooth 接続メニューの切り換え」を参照して**[追加デバイス]**を選ぶ(→P26)

2 登録するBluetooth機器を選ぶ

ロータリーコマンドを回します。

周辺のBluetooth機器が検索され、登録可能なBluetooth機器のデバイス名(機器名称)が表示されます。

ロータリーコマンドを長く押しすと、デバイス名(機器名称)とデバイスアドレスを切り換えることができます。

- すでに3台のBluetooth機器が本機に登録されている場合、「登録可能デバイス数の限界です」と表示されます。登録されているBluetooth機器を削除してください(→P26)。
- 目的のBluetooth機器が表示されていないときは、「再検索」を選びます。
- 登録可能なBluetooth機器が見つからなかった場合は、「見つかりません」と表示されます。
- お使いのBluetooth機器によっては、本機からの検索で見つからない場合があります。その場合は、Bluetooth機器から登録してください。検出状態の設定が、ONになっている必要があります(→P27)。
- 検索中にもう一度ロータリーコマンドを押しすと、検索を中止します。

3 選んだBluetooth機器を接続する

ロータリーコマンドを押します。

本機とBluetooth機器のディスプレイに表示される6桁の数字が同じであることを確認し、[YES]を選んでください。

Bluetooth機器側にパスコードの入力が求められた場合は、Bluetooth機器を操作して、パスコードを入力してください。

登録が完了すると、本機のディスプレイに、「ペアリング完了」と表示されます。

- 工場出荷時のパスコードは、「0000」です。パスコードは変更できます(→P27)。

■ 自動接続を設定する

本機能をONにすると、登録済みのBluetooth機器の中で、最後に接続した機器(2台同時接続していた場合は、最後に接続した2台の機器)に自動で接続できます。

1 「Bluetooth接続メニューの切り換え」を参照して[自動接続設定]を選ぶ(→P26)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドを押すごとに [ON] ⇄ [OFF] が切り換わります。

■ Bluetooth機器からの検出状態を設定する

本機能をONにすると、Bluetooth機器から本機を検出できます。

Bluetooth機器からの接続方法については、Bluetooth機器の説明書をお読みください。

1 「Bluetooth接続メニューの切り換え」を参照して[検出可能]を選ぶ(→P26)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドを押すごとに [ON] ⇄ [OFF] が切り換わります。

■ 本機のパスコードを変更する

工場出荷時のパスコード「0000」を変更できます。

1 「Bluetooth接続メニューの切り換え」を参照して[パスコード編集]を選ぶ(→P26)

2 パスコードを変更する

● 入力する数字を選ぶとき

ロータリーコマンドを回します。

操作	動作内容
右に回す	数字を大きくする。
左に回す	数字を小さくする。

● 入力する位置を選ぶとき

ロータリーコマンドを押します。
押すたびに入力する位置が右に移動します。

3 パスコードの編集を終了する

ロータリーコマンドを長く押しします。

■ 本機のBluetooth機器情報を確認する

本機の機器名称(デバイス名)や機器アドレス(デバイスアドレス)を確認できます。

1 「Bluetooth接続メニューの切り換え」を参照して[デバイス情報]を選ぶ(→P26)

2 情報を確認する

ロータリーコマンドーを回すごとに切り換わります。

機器名称⇄機器アドレス

■ 機器削除画面自動表示設定をする

本機能をONにすると、登録操作時すでに3台のBluetooth機器が登録されている場合、機器削除メニュー(→P26)に自動で移ります。

1 「Bluetooth接続メニューの切り換え」を参照して [機器削除自動設定] を選ぶ(→P26)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドーを押すごとに [ON] ⇄ [OFF] が切り換わります。

■ 自動ペアリングを設定する

本機能をONにすると、iPhoneをUSB接続したとき、自動的にペアリングを要求します。

1 「Bluetooth接続メニューの切り換え」を参照して [自動ペアリング設定] を選ぶ(→P26)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドーを押すごとに [ON] ⇄ [OFF] が切り換わります。

- iPhone側のBluetooth設定がOFFの場合も動作します。
- iOSのバージョンによっては、この機能は使用できません。

携帯電話を使う

本機では、Bluetooth対応の携帯電話を使用して、ハンズフリー通話ができます。

Bluetooth対応の携帯電話は、2台まで同時に接続できます。接続方法は、P26をご覧ください。

- 携帯電話を使用するときは、必ず安全な場所に車を停車させてください。
- 初めて本機で携帯電話を使用する場合は、携帯電話を本機に登録する必要があります(→P26)。
- 組み合わせるBluetooth対応の携帯電話によっては、操作や動作が異なります。携帯電話の取扱説明書も併せてご覧ください。

電話に出る・電話を切る

どのソースを聞いているときでも、本機の電源がOFFのときでも、かかってきた電話に出ることができます。

1 電話がかかってきたら、電話に出る

ロータリーコマンドーを押します。
電話がつながり、通話できます。

- 割込通話機能の利用には、携帯電話会社との契約が必要です。
- 割込通話中は、通話の相手を切り換えることはできませんが、通話を個別に切ることはできません。
- 通話中にBAND/  ボタンを押すと、ハンズフリー通話とプライベート通話(携帯電話で通話)を切り換えることができます。
- 通話中にロータリーコマンドーを押すと、電話の保留と応答を切り換えることができます。
- 通話中に別の電話がかかってきた場合(割込通話)、ロータリーコマンドーを押すと、通話の相手が切り換わります。
- ハンズフリー通話中にレバーを左右に回すと、通話相手への音声を調整することができます。
- 着信中にロータリーコマンドーを回すと、着信音量を調節できます。
- 携帯電話の2台同時接続中に、1台目で通話をしていて2台目に電話がかかってきた場合は、本機のディスプレイにメッセージが表示されます。

2 受話音量を調節する

ロータリーコマンドーを回します。

操作	動作内容
右に回す	音量を大きくする。
左に回す	音量を小さくする。

3 電話を切る

 ボタンを押します。

着信を拒否する

電話に出られないときは、着信を拒否できます。

1 電話がかかってきたら着信を拒否する

 ボタンを長く押します。

 ・通話中に別の電話がかかってきた場合も、同じ操作で着信を拒否できます。

PHONEメニューを切り換える

電話機能をPHONEメニューで選んで操作します。

1 PHONEメニューを表示する

 ボタンを押します。

2 機能を選ぶ

ロータリーコマンドを回すごとに切り換わります。押すと決定または設定値が変更されます。
[不在着信履歴] ⇄ [発信履歴] ⇄ [着信履歴] ⇄ [電話帳] ⇄ [電話機能設定]

 ・携帯電話が接続されていないときは、不在着信履歴、発信履歴、着信履歴には切り換わりません。

履歴から電話をかける

接続中の携帯電話ごとに、不在着信履歴、発信履歴、着信履歴が各80件まで本機に記録されます。記録された履歴データから、電話をかけることができます。

1 PHONEメニューから[不在着信履歴] / [発信履歴] / [着信履歴]のいずれかを選ぶ(→P29)

2 履歴データを選ぶ

ロータリーコマンドを回します。

操作	動作内容
右に回す	次の履歴データを選ぶ。
左に回す	前の履歴データを選ぶ。

3 電話をかける

ロータリーコマンドを押します。

電話帳から電話をかける

携帯電話の電話帳から電話をかけることができます。

1 PHONEメニューから[電話帳]を選ぶ(→P29)

2 電話帳を検索する

ロータリーコマンドを回して検索方法を選びます。

3 電話をかける

ロータリーコマンドを回して電話をかけたい相手を選び、押します。

電話機能を設定する

 ・操作や設定が終了したら、BAND/ ボタンを押してください。ふだんの再生画面に戻ります。

1 PHONEメニューから[電話機能設定]を選ぶ(→P29)

2 機能を選ぶ

ロータリーコマンドを回すごとに切り換わります。押すと設定値が変更されます。
[自動着信設定] ⇄ [着信BEEP音設定] ⇄ [電話帳表示切替]

■ 自動着信を設定する

自動着信をONに設定すると、着信後約5秒で自動的に応答して通話できます。

1 電話機能から[自動着信設定]を選ぶ(→P29)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドを押すごとに [ON] ⇄ [OFF] が切り換わります。

 ・2台同時接続して通話・発信・受信をしていると、2台目に電話がかかってきても自動着信しません。

■ 着信音を設定する

着信音設定をONにすると、本機側で用意された着信音になります。ただし、接続した携帯電話によっては、機能しない場合があります。

1 電話機能から [着信BEEP音設定] を選ぶ (→P29)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドーを押すごとに [ON] ⇄ [OFF] が切り換わります。

■ 電話帳の表示方法を設定する

電話帳リストの表示方法を切り替えることができます。

1 電話機能から [電話帳表示切替] を選ぶ (→P29)

2 表示を切り替える

ロータリーコマンドーを押すごとに [昇順] ⇄ [降順] が切り換わります。

音の調節

「音量バランス調節」「ラウドネス」などの音質調整機能を使うときは、オーディオメニューで機能を選んで操作します。



• 操作や設定が終了したら、BAND/  ボタンを押してください。ふだんの再生画面に戻ります。

1 オーディオメニューを表示する

電源ONの状態、ロータリーコマンドーを押します。

ロータリーコマンドーを回してAUDIOを選び、押します。

2 機能を選ぶ

ロータリーコマンドーを回すごとに切り換わります。押すと決定または設定値が変更されます。

[Fader/Balance] ⇄ [Preset EQ] ⇄ [G.EQ]

⇄ [Loudness] ⇄ [Subwoofer 1] ⇄

[Subwoofer2] ⇄ [Bass Booster] ⇄ [HPF]

⇄ [SLA]



• Subwoofer2は、Subwoofer1 の設定がONのときだけ選べます。

前後左右の音量バランスを調節する

前後左右のスピーカーからの音量バランスを調節できます。より自然に聞こえるバランスに設定してください。



• リアスピーカー出力の設定 (→P33) を「Rear SP:S/W」にしたときは、Fader (フェーダー) は調節できません。

1 オーディオメニューから [Fader/Balance] を選ぶ (→P30)

2 音量バランスを調節する

前後を調節するとき

ロータリーコマンドーを押して、前後のバランス設定に切り換えます。

操作	動作内容
右に回す	前を強める。
左に回す	後ろを強める。

前後のバランスは、Fad F15～Fad R15の範囲で調節できます。

左右を調節するとき
ロータリーコマンドを押して、左右のバランス設定に切り換えます。

操作	動作内容
右に回す	右を強める。
左に回す	左を強める。

左右のバランスは、Bal L15 ~ Bal R15の範囲で調節できます。

イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、好みの音質にできます。

 交通情報を受信しているときは、イコライザーカーブを選べません。

1 オーディオメニューから [Preset EQ] を選ぶ (→P30)

2 イコライザーカーブを切り換える

ロータリーコマンドを回すごとに切り換わります。

[Flat] ⇄ [Super Bass] ⇄ [Powerfull] ⇄
[Natural] ⇄ [Vocal] ⇄ [Custom1] ⇄
[Custom2]

 「Custom1」と「Custom2」は、お好みに合わせて調節できます。
「Flat」は、イコライザーによる音の補正がされていません。他のイコライザーカーブと切り換えることで、そのイコライザーカーブの効果を確認することもできます。

イコライザーカーブを調節する

お好みに合わせて、イコライザーカーブの周波数ごとにレベルを調節できます。

 「Custom1」は、調節したイコライザーカーブがソースごとに登録されます。(USB、iPod、Appは同じ設定になります。また、携帯電話の通話音声と交通情報は同じ設定になります。)
「Custom2」以外のカーブを選んでいるときに調節すると、自動的に「Custom1」に登録されます。
「Custom2」は、すべてのソースに共通のイコライザーカーブで、調節ができます。「Custom2」を選んでいるときに調節すると、調節内容が更新されます。

1 調節したいイコライザーカーブを選ぶ (→P31)

2 オーディオメニューから [G.EQ] を選ぶ (→P30)

3 周波数を選ぶ

ロータリーコマンドを回します。

操作	動作内容
右に回す	高い周波数を選ぶ。
左に回す	低い周波数を選ぶ。

100 Hz、315 Hz、1.25 kHz、3.15 kHz、8 kHzの中から選べます。

4 レベル調節に切り換える

ロータリーコマンドを押します。

5 レベルを調節する

ロータリーコマンドを回します。

操作	動作内容
右に回す	レベルを大きくする。
左に回す	レベルを小さくする。

レベルは -6 ~ +6 の範囲で調節できます。

 調節するイコライザーカーブによっては、調節範囲が異なります。

小さな音量でも聞きやすくする

小さな音量で音楽を聞いていると、低音・高音が不足しているように感じることがあります。ラウドネスは、この不足感を補って、音を聞きやすくします。

1 オーディオメニューから [Loudness] を選ぶ (→P30)

2 OFF / 効果音設定値を切り換える

ロータリーコマンドを押すごとに [OFF] ⇄ 効果音設定値 ([Low]、[Mid]、[High]) が切り換わります。

3 ラウドネスの効果を選ぶ

ロータリーコマンドを回すごとに、Low (弱)、Mid (中)、High (強) の中から選べます。

サブウーファースのOFF / 位相切り換え

本機にサブウーファースを接続して使用する場合は、サブウーファースから出力される音が自然に聞こえるように、位相を切り換えてください。

- サブウーファースから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域の成分が含まれています。車内条件により、これらの音の位相が反転(干渉)し、打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐために、車内条件に合わせて位相を正相または逆相に切り換えてください。
 - 正相: サブウーファースの音が、フロント/リアスピーカーと同時に出力される
 - 逆相: サブウーファースの音が、フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される

1 オーディオメニューから [Subwoofer 1] を選ぶ (→P30)

2 OFF / 位相設定値を切り換える

ロータリーコマンドーを押すごとに [OFF] ⇄ 位相設定値 ([Normal]、[Reverse]) が切り換わります。

3 サブウーファースの位相を選ぶ

ロータリーコマンドーを回します。

操作	動作内容
右に回す	Normal (正相) を選ぶ。
左に回す	Reverse (逆相) を選ぶ。

サブウーファースのカットオフ周波数選択とレベル調節

サブウーファースから出力される低音域(カットオフ周波数)と出力レベルを設定します。他のスピーカーから出力される音とのつながりが自然になるように設定してください。

- 本機能では、選んだ周波数よりも上の周波数(または下の周波数)の音域をカットします。このときに選択する周波数を、カットオフ周波数と呼びます。サブウーファースのカットオフ周波数の設定では、カットオフ周波数よりも上の音域がカットされ、低音域だけが出力されます。また、カットオフ周波数以下の音域の出力レベルを上げることで、低音をさらに強調することもできます。
 - 「Subwoofer 1」(→P30)を「OFF」にした場合は、操作できません。

1 オーディオメニューから [Subwoofer 2] を選ぶ (→P30)

2 カットオフ周波数を選ぶ

ロータリーコマンドーを回します。

操作	動作内容
右に回す	高い周波数を選ぶ。
左に回す	低い周波数を選ぶ。

カットオフ周波数は、50 Hz、63 Hz、80 Hz、100 Hz、125 Hzの中から選べます。

3 出力レベルの設定に切り換える

ロータリーコマンドーを押します。

4 レベルを調節する

ロータリーコマンドーを回します。

操作	動作内容
右に回す	レベルを大きくする。
左に回す	レベルを小さくする。

レベルは、-24 ~ +6 の範囲で調節できます。

低い音を強調する

低音域を強調できます。バスブースターのレベルを上げると、迫力のある低音を再生できます。

1 オーディオメニューから [Bass Booster] を選ぶ (→P30)

2 レベルを調節する

ロータリーコマンドーを回します。

操作	動作内容
右に回す	レベルを大きくする。
左に回す	レベルを小さくする。

レベルは、0 ~ +6 の範囲で調節できます。

- サブウーファース設定のON/OFFによって、ブーストされる音域は、次の周波数以下になります。
 - サブウーファース設定がONの場合:
 - サブウーファースのカットオフ周波数に連動
 - サブウーファース設定がOFFの場合:
 - 100 Hz固定

高い音だけ出力する

選んだ周波数よりも高い音だけを、フロントスピーカー、リアスピーカーから出力します。フロントスピーカーとリアスピーカーからは高音だけを出力し、サブウーファースからは低音だけを出力することで、各スピーカーとサブウーファースの音のつながりを自然にできます。



•本機能では、選んだ周波数よりも下の周波数（または上の周波数）の音域をカットします。このときに選択する周波数を、カットオフ周波数と呼びます。本設定では、カットオフ周波数よりも下の音域がカットされ、高音域だけが出力されます。

1 オーディオメニューから [HPF] を選ぶ (→P30)

2 OFF / 周波数設定値を切り換える

ロータリーコマンドを押すごとに [OFF] ⇄ 周波数設定値 ([50 Hz] ~ [125 Hz]) が切り換わります。

3 カットオフ周波数を選ぶ

ロータリーコマンドを回します。

操作	動作内容
右に回す	高い周波数を選ぶ。
左に回す	低い周波数を選ぶ。

カットオフ周波数は、50 Hz、63 Hz、80 Hz、100 Hz、125 Hzの中から選べます。

各ソースの音量をそろえる

ソースを切り換えたときに、ソースごとの音量が違ふことがあります。SLAを使うと、FMの音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。



•SLAとは、「Source Level Adjuster (ソースレベルアジャスター)」の略です。
•ラジオのFMを聞いているときは、SLAには切り換わりません。

1 オーディオメニューから [SLA] を選ぶ (→P30)

2 レベルを調節する

ロータリーコマンドを回します。

操作	動作内容
右に回す	レベルを大きくする。
左に回す	レベルを小さくする。

レベルは-4~+4の範囲で調節できます。



•AM / CD / USB / iPod / AUX (外部機器) の音量差を調節できます。

初期 / システム設定

「リア出力を設定する」や「時計を合わせる」などの設定は、初期設定メニューまたはシステムメニューで操作します。

初期設定メニューは、電源をOFFにした状態で操作します。システムメニューは、電源をOFFにした状態でも、ONにした状態でも操作できます。

初期設定メニューを切り換える

1 本機の電源をOFFにする (→P9)

2 初期設定メニューを表示する

ロータリーコマンドを押します。
ロータリーコマンドを回して初期設定を選び、押します。

3 機能を選ぶ

ロータリーコマンドを回すごとに切り換わります。押すと決定します。
[S/Wコントロール] ⇄ [ソフトウェア]

■ リア出力を設定する

リアスピーカー出力に接続するスピーカーの種類に合わせて、リアスピーカーの出力方法を選べます。

初期設定メニューで操作します。電源をOFFにした状態で操作します (→P33)。



•リアスピーカー出力の設定を「Rear SP:S/W」に切り換えると、リアスピーカー端子にサブウーファアを直接接続できます。

1 初期設定メニューから [S/Wコントロール] を選ぶ (→P33)

ロータリーコマンドを押します。
ロータリーコマンドを回してSETUPを選び、押します。

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドを押すごとに [Rear SP:S/W] ⇄ [Rear SP:F.Range] が切り換わります。

機能名	動作内容
Rear SP: F.Range	フルレンジスピーカーを接続するとき
Rear SP: S/W	サブウーファーを接続するとき

Bluetoothのソフトウェアを更新する

本機のBluetoothソフトウェアを更新できます。Bluetoothのソフトウェアについての情報や更新についての詳細は、パイオニアのホームページをご覧ください。

 ・更新作業中は、本機の電源をOFFにしないでください。

1 初期設定メニューから [ソフトウェア] を選ぶ (→P33)

更新が開始します。

更新が完了すると、「アップデート完了」と表示されます。

システムメニューを切り換える

 ・操作や設定が終了したら、BAND/  ボタンを押してください。ふだんの再生画面に戻ります。

1 システムメニューを表示する

ロータリーコマンドを押します。

ロータリーコマンドを回してSYSTEMを選び、押します。

2 機能を選ぶ

ロータリーコマンドを回すごとに切り換わります。押すと決定または設定値が変更されます。

[カレンダー設定] ⇄ [時計調整] ⇄ [経過時間アラート設定] ⇄ [時計表示] ⇄ [タッチワーニング設定] ⇄ [外部機器設定] ⇄ [BT AUDIO設定] ⇄ [ユーザーメモリー消去] ⇄ [BT パージョン情報] ⇄ [APP 接続MODE] ⇄ [ステアリングリモコン設定]

■ 日付を合わせる

本機のディスプレイに表示する日付を合わせます。

1 システムメニューから [カレンダー設定] を選ぶ (→P34)

2 年、月、日を選ぶ

ロータリーコマンドを押します。

3 日付を合わせる

ロータリーコマンドを押します。

■ 時計を合わせる

本機のディスプレイに表示する時計の調整ができます。

1 システムメニューから [時計調整] を選ぶ (→P34)

2 時または分を選ぶ

ロータリーコマンドを押します。

 ・時刻表示を切り換えるときは「12H」または「24H」を選びます。
12H: 12時間表示
24H: 24時間表示

3 時刻を合わせる

ロータリーコマンドを回します。

分を調節すると、0 秒からカウントが始まりません。

■ 本機の使用時間を知らせる

車のエンジン、またはACCがONになってからの時間を計測し、設定した時間ごとに使用時間を表示と音で知らせます。

1 システムメニューから [経過時間アラート設定] を選ぶ (→P34)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドを押すごとに切り換わります。

OFF → 15分 → 30分 → OFFに戻る

■ 時計表示を切り換える

1 システムメニューから [時計表示] を選ぶ (→P34)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドーを押すごとに切り換わります。

[ON] → [経過時間] → [OFF] → [ON] に戻る

■ フロントパネルの外し忘れを警告する

イグニッションスイッチをOFFにしたときに、フロントパネルを外し忘れていたり、約4秒後に警告ブザーが鳴ります。

フロントパネルを取り外すには(→P9)。

1 システムメニューから [デタッチワーニング設定] を選ぶ (→P34)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドーを押すごとに [ON] ⇄ [OFF] が切り換わります。

■ 外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする

本機にポータブル音楽再生機器やVTRなどの外部機器を接続して、その音声を聞くことができます。

 ・本機に外部機器を接続するには、本機背面にあるAUX入力端子に、3.5φステレオミニジャックを差し込みます。

1 システムメニューから [外部機器設定] を選ぶ (→P34)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドーを押すごとに [ON] ⇄ [OFF] が切り換わります。

 ・工場出荷時は、AUXがONに設定されています。AUXを使用しない場合は、OFFに設定してください。

■ BT AUDIO ソースを ON にする

Bluetooth対応機器を接続してBT AUDIO ソースとして使用する場合、設定をONにします。

1 システムメニューから [BT AUDIO 設定] を選ぶ (→P34)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドーを押すごとに [ON] ⇄ [OFF] が切り換わります。

■ 登録した Bluetooth 機器のデータを消去する

本機に登録したBluetooth対応機器から転送されたデータなどを削除できます。この機能では、以下の情報が消去されます。

- ・履歴データ (不在着信履歴、発信履歴、着信履歴)
- ・Bluetooth登録機器リスト
- ・編集したパスワード

1 システムメニューから [ユーザーメモリー消去] を選ぶ (→P34)

確認画面が表示されます。

消去をやめる場合は、ロータリーコマンドーを回してキャンセルにします。

2 消去する

ロータリーコマンドーを押します。

消去が完了すると、「消去しました」と表示されます。

 ・消去できない場合は、「消去できませんでした」と表示されます。

■ Bluetooth のソフトウェアのバージョンを確認する

1 システムメニューから [BT バージョン情報] を選ぶ (→P34)

本機のBluetoothソフトウェアのバージョンが表示されます。

■ APP ソースで接続する機器を選ぶ

 ・APP ソースでは、設定できません。

1 システムメニューから [APP 接続 MODE] を選ぶ (→P34)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドーを押すごとに切り換わります。

[Wired] ⇄ [Bluetooth]

機能名	動作内容
Wired	iPhone/iPod touchを接続 (ケーブル接続)
Bluetooth	スマートフォンを接続 (Bluetooth接続)

■ ステアリングリモコンのキー設定をする

ステアリングリモコンを使用するためには、ステアリングリモコンアダプタ (別売) またはステアリングリモコンケーブル (別売) が必要です。

1 システムメニューから [ステアリングリモコン設定] を選ぶ (→P34)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドーを回すごとに切り換わります。

設定を選択し、ロータリーコマンドーを押します。

[OFF] ⇄ [パイオニア] ⇄ [プリセット]

機能名	動作内容
OFF	ステアリングリモコンは動作しない (工場出荷時の設定です)。
パイオニア	ステアリングリモコンのキー設定を行う。 ステアリングリモコンアダプタ (別売) を利用する場合に選択してください。 1 [VOL+長押し] が表示されたら、ステアリングリモコンの [VOL UP] キーを1秒以上押す 2 [完了] と表示されたことを確認する
プリセット	ステアリングリモコンのキー設定を行う。 ステアリングリモコンケーブル (別売) を利用する場合に選択し、下記の操作を行ってください。 1 ロータリーコマンドーを回して車両メーカーを選択する 2 ロータリーコマンドーを押す 3 [VOL+長押し] が表示されたら、ステアリングリモコンの [VOL UP] キーを1秒以上押す 4 [VOL-長押し] が表示されたら、ステアリングリモコンの [VOL DOWN] キーを1秒以上押す 5 [完了] と表示されたことを確認する

• 車両によっては正しく動作しない場合があります。詳しくは、パイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

その他機能

• 操作や設定が終了したら、BAND/  ボタンを押してください。ふだんの再生画面に戻ります。

MIXTRAX 機能を使う

MIXTRAXとは、さまざまな効果音を加えて、曲間をアレンジする技術です。ノンストップで音楽を楽しむことができます。また、再生する曲に合わせてディスプレイやボタンの色が自動的に変化し、さまざまな演出効果を楽しむことができます。本機能を使うときは、MIXTRAX/TI ボタン (→P11) を押して、ON / OFFを切り換えます。

• 本機能を ONにすると、再生する曲に合わせてディスプレイやボタンの色が自動的に変化します。運転の妨げになるような場合は、本設定を OFFにするか、点滅エリアの切り換えを OFFにしてください (→P37)。
• 本機能は、USB (MTP接続を除く)、iPodの曲で使用できます。ただし、iPodのオーディオブックや Podcastは、効果音を加えて曲間をアレンジする機能に対応していません。
• 曲を切り換えるときも自動で音声に加わり、無音状態がなくなります。

1 MIXTRAXメニューを表示する

電源 ONの状態、ロータリーコマンドーを押します。

ロータリーコマンドーを回して MIXTRAX を選び、押します。

2 機能を選ぶ

ロータリーコマンドーを回すごとに切り換わります。押すと決定または設定値が変更されます。

[SHORT PLAYBACK] ⇄ [FLASH AREA] ⇄ [Flashing Color] ⇄ [DISP EFFECT] ⇄ [CUT IN EFFECT] ⇄ [MIX Settings]

曲の再生時間を切り換える

設定した時間だけ、曲が再生されます。

1 MIXTRAXメニューから [SHORT PLAYBACK] を選ぶ (→P36)

2 再生時間を選ぶ

ロータリーコマンドを回すごとに切り換わります。

[1.0 MIN] ~ [3.0 MIN] ⇄ [Random] ⇄ [OFF]

再生時間は、1.0 MIN (分)、1.5 MIN (分)、2.0 MIN (分)、2.5 MIN (分)、3.0 MIN (分) のの中から選べます。

Randomを選ぶと、曲が切り換わるたびに、次曲の再生時間が1.0 MIN ~ 3.0 MINから、ランダムに選択されます。

点滅エリアを切り換える

点滅エリアを、ボタンとディスプレイの中から選びます。

OFFを選択すると、イルミネーションメニューで設定した色になります (→ P38)。

1 MIXTRAXメニューから [FLASH AREA] を選ぶ (→ P36)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドを回すごとに切り換わります。

[Key&Display] ⇄ [KEY SIDE] ⇄ [OFF]

機能名	動作内容
Key&Display	ボタンとディスプレイが点滅する。
KEY SIDE	ボタンが点滅する。
OFF	点滅しない。

点滅パターンを切り換える

再生する曲に合わせて点滅パターンを選びます。

1 MIXTRAXメニューから [Flashing Color] を選ぶ (→ P36)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドを回すごとに切り換わります。

[Sound Level Mode Color 1] ~ [Sound Level Mode Color 6] ⇄ [Low Pass Mode Color 1] ~ [Low Pass Mode Color 6] ⇄ [Flashing Color Random] ⇄ [Sound Level Mode Random] ⇄ [Low Pass Mode Random]

機能名	動作内容
Sound Level Mode Color 1 ~ Sound Level Mode Color 6	再生する曲のレベルに応じて変化する。
Low Pass Mode Color 1 ~ Low Pass Mode Color 6	再生する曲の低音レベルに応じて変化する。
Flashing Color Random	SOUND LEVELとLOW PASSの全12種類のパターンからランダムに選択する。
Sound Level Mode Random	SOUND LEVELの全6種類のパターンからランダムに選択する。
Low Pass Mode Random	LOW PASSの全6種類のパターンからランダムに選択する。

画面演出を設定する

MIXTRAX専用の画面演出を行います。通常の画面表示は行いません。

1 MIXTRAXメニューから [DISP EFFECT] を選ぶ (→ P36)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドを回すごとに切り換わります。

[MIXTRAX 1] ⇄ [MIXTRAX 2] ⇄ [OFF]

機能名	動作内容
MIXTRAX 1	専用画面 1 の画面演出をする。
MIXTRAX 2	専用画面 2 の画面演出をする。
OFF	画面演出をしない。

効果音を設定する

手動で曲を切り換えるときに効果音を出します。

1 MIXTRAXメニューから [CUT IN EFFECT] を選ぶ (→ P36)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドを押すごとに [ON] ⇄ [OFF] が切り換わります。

効果音の効果を設定する

固定音とエフェクト効果音を設定します。固定音とエフェクト効果音を組み合わせ、曲間ごとにランダム再生します。

1 MIXTRAXメニューから[MIX Settings]を選ぶ(→P36)

2 設定を切り換える機能を選ぶ

ロータリーコマンドーを回すごとに切り換わり、押すと決定します。

[MIX Fixed] ⇄ [LOOP EFFECT] ⇄ [Flanger EFFECT] ⇄ [Echo EFFECT] ⇄ [Crush EFFECT] ⇄ [Crossfade EFFECT]

機能名	動作内容
MIX Fixed	ID3 tagで曲のジャンルを判別し、6種類の固定音から選別して再生する。
LOOP EFFECT	曲の一部を繰り返し再生する。
Flanger EFFECT	ジェット機の上昇、下降音のような、うねり効果をかける。
Echo EFFECT	反響効果をかける。
Crush EFFECT	クラッシュ効果をかける。
Crossfade EFFECT	フェードアウト、フェードインをして曲をつなげる。

3 設定を切り換える

ロータリーコマンドーを回すごとに [ON] ⇄ [OFF] が切り換わり、押すと決定します。

- ID3 tagでジャンルを判別できない場合は、すべての固定音の中からランダム再生します。
- iPodソースでは、「Flanger EFFECT」、「Crush EFFECT」、「Crossfade EFFECT」はかかりません。

背景画面を設定する

音楽などを聞いているときの、ディスプレイの表示をエンタテインメントメニューで選びます。

1 エンタテインメントメニューを表示する

電源ONの状態、ロータリーコマンドーを押します。

ロータリーコマンドーを回して ENTERTAINMENTを選び、押します。

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドーを回すごとに切り換わります。

[SIMPLE] ⇄ [SPEANA] ⇄ [LevelIn] ⇄ [CALENDAR]

3 設定する

ロータリーコマンドーを押します。エンタテインメントメニューが解除されます。

- 「SPEANA」は、曲に連動してスペアナ表示をします。ラジオ/AUXソースでは表示されません。
- 「LevelIn」は、曲に連動してレベル表示をします。ラジオ/AUXソースでは表示されません。

イルミネーション機能を使う

本機に設定したい色を、イルミネーションメニューで選びます。

1 イルミネーションメニューを表示する

電源ONの状態、ロータリーコマンドーを押します。

ロータリーコマンドーを回して ILLUMINATIONを選び、押します。

2 機能を選ぶ

ロータリーコマンドーを回すごとに切り換わり、押すと決定または設定値が変更されます。

[Color 設定] ⇄ [ディマー設定] ⇄ [輝度調整] ⇄ [Phone Color] ⇄ [Illumi Effect]

ボタンの色を選ぶ

ロータリーコマンドーと、その周辺のボタンに設定したい色を選びます。

1 イルミネーションメニューから
[Color 設定] を選ぶ (→P38)

2 [Key Side] を選ぶ

3 色を切り換える

ロータリーコマンドーを回すごとに切り換わります。

[White] ⇄ [Red] ⇄ [Amber] ⇄ [Orange] ⇄
[Yellow] ⇄ [Puregreen] ⇄ [Green] ⇄
[Turquoise] ⇄ [Lightblue] ⇄ [Blue] ⇄
[Purple] ⇄ [Pink] ⇄ [Scan] ⇄ [Custom]
White～Pinkはプリセットカラーです。

-  プリセットカラーを選択時にロータリーコマンドーを長く押すと、その色を調節できます (→P39)。
- 「Scan」(スキャン) は、様々な色を自動で切り換えます。
- 「Custom」(カスタム) は、調節したボタンやディスプレイの色で表示します (→P39)。

ディスプレイの色を選ぶ

ディスプレイに設定したい色を選びます。

1 イルミネーションメニューから
[Color 設定] を選ぶ (→P38)

2 [Display Side] を選ぶ

3 色を切り換える

ロータリーコマンドーを回すごとに切り換わります。

[White] ⇄ [Red] ⇄ [Amber] ⇄ [Orange] ⇄
[Yellow] ⇄ [Puregreen] ⇄ [Green] ⇄
[Turquoise] ⇄ [Lightblue] ⇄ [Blue] ⇄
[Purple] ⇄ [Pink] ⇄ [Scan] ⇄ [Custom]
White～Pinkはプリセットカラーです。

-  「ボタンの色を選ぶ」の場合と同じです。

ボタンとディスプレイの色を選ぶ

本機のボタンとディスプレイに設定したい色を選びます。

1 イルミネーションメニューから
[Color 設定] を選ぶ (→P38)

2 [Key & Display] を選ぶ

3 色を表示する

ロータリーコマンドーを押します。

4 色を切り換える

ロータリーコマンドーを回すごとに切り換わります。

[White] ⇄ [Red] ⇄ [Amber] ⇄ [Orange] ⇄
[Yellow] ⇄ [Puregreen] ⇄ [Green] ⇄
[Turquoise] ⇄ [Lightblue] ⇄ [Blue] ⇄
[Purple] ⇄ [Pink] ⇄ [Scan]
White～Pinkはプリセットカラーです。

-  「ボタンの色を選ぶ」の場合と同じです。ただし、プリセットカラー選択時の色調節はできません。また、「Custom」は表示されません。

ボタンとディスプレイの色を調節する

本機のボタンやディスプレイに設定する色を、お好みに合わせて調節します。

1 イルミネーションメニューから
[Color 設定] を選ぶ (→P38)

2 [Key Side] または [Display Side] を
選ぶ

-  「Key&Display」で色を設定しているときは、調節できません。

3 プリセットカラーまたは [Custom]
を選ぶ

4 色の調節をはじめる

ロータリーコマンドーを長く押します。

5 RGBを選ぶ

ロータリーコマンドーを押すごとに切り換わります。

[R] → [G] → [B] → [R]に戻る

6 RGBそれぞれを調整する

ロータリーコマンドーを回します。

操作	動作内容
右に回す	レベルを大きくする。
左に回す	レベルを小さくする。

レベルは、0～60の範囲で調節できます。



- ・ディスプレイの明るさに応じて調節できます。ディスプレイは車のライトをONにすると暗くなり、OFFにすると明るくなります。
- ・他の色も同じ操作で調節できます。
- ・R (赤)、G (緑) および B (青) を同時に20未満のレベルにすることはできません。

夜間のディスプレイの明るさを切り換える

夜間にディスプレイがまぶしく感じられる場合、ディマー設定をONにすると便利です。

1 イルミネーションメニューから [ディマー設定] を選ぶ (→P38)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドーを回すごとに切り換わります。

[スモールランプ連動] ⇄ [時計連動] ⇄ [ON] ⇄ [OFF]

機能名	動作内容
スモールランプ連動	車のスモールランプを点灯すると、ディスプレイが暗くなる。
時計連動	ディマーの開始時間と終了時間を設定し、ディスプレイを暗くする時間を指定する。
ON	⤴/DISP ボタンを押すごとに、ディマー設定のON/OFFを切り換える。
OFF	ディマー設定をしない。

輝度を調節する

ディマー設定時の輝度諸調を設定します。

1 イルミネーションメニューから [輝度調整] を選ぶ (→P38)

2 輝度を調節する

ロータリーコマンドーを回します。

操作	動作内容
右に回す	レベルを大きくする。
左に回す	レベルを小さくする。

電話着信時の色を選ぶ

電話を着信したときに設定したい色を選びます。

1 イルミネーションメニューから [Phone Color] を選ぶ (→P38)

2 色を切り換える

ロータリーコマンドーを回すごとに切り換わります。

[Flashing] ⇄ [Flash FX 1] ⇄ [Flash FX 2] ⇄ [Flash FX 3] ⇄ [Flash FX 4] ⇄ [Flash FX 5] ⇄ [Flash FX 6] ⇄ [OFF]

イルミネーションをスロー点灯/消灯させる

CDディスクを挿入/排出したとき、または携帯電話の着信/通話中に、ボタンとディスプレイのイルミネーションがスロー点灯/消灯します。

1 イルミネーションメニューから [Illumi Effect] を選ぶ (→P38)

2 設定を切り換える

ロータリーコマンドーを押すごとに [ON] ⇄ [OFF] が切り換わります。

音声認識機能を使う

音声認識機能を搭載した iPod を Bluetooth 接続している場合、本機の音声認識機能を使って音楽を再生したり、電話をかけることができます。

- 音声認識について詳しくは、iPod の説明書をお読みください。
- 操作方法は、ご使用の iPod によって異なる場合があります。
- 発話どおり認識されたことを確認してください。
- 風切り音や外の騒音などは、発話を正しく認識できない原因になります。車の窓は閉めてください。
- マイクはドライバーの声を拾いやすい向きと距離に取り付けてください。
- 音声入力開始操作後、すぐに発話すると正しく認識できない原因になります。
- ゆっくり、はっきりと発話しないと、正しく認識できない原因になります。

1 音声認識モードに入る

ロータリーコマンドを長く押します。「音声認識中」と表示され、音声認識モードに入ります。

- iPod を操作して音声認識モードに入ることできます。

2 音声入力を開始する

ロータリーコマンドを押して、本機のマイクに向かって発話します。音声指示した動作が実行されます。

- 繰り返し音声入力を行うときは、もう一度ロータリーコマンドを押します。

接続／取り付け

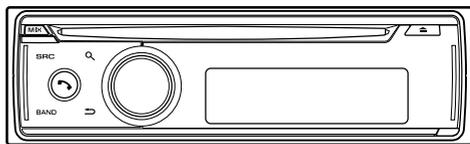
接続／取り付け上のご注意

- 接続する前に、必ず車のバッテリーの⊖端子を外してください。
- 車への取り付けは、必ず本書に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方法や、指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。
- 別売製品の接続および取り付けについては、別売製品に付属の説明書も併せてご覧ください。

接続／取り付け部品を確認する

■ 本体関係

本体 × 1



トラスネジ
(5 mm × 8 mm) × 4



皿ネジ
(5 mm × 9 mm) × 4



■ コード関係

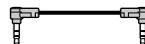
電源コード × 1



USB 接続ケーブル × 1



ミニジャック延長ケーブル × 1



■ マイク関係

ハンズフリー用マイク × 1



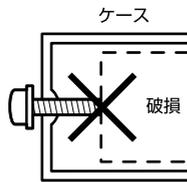
両面テープ
(15 mm × 12 mm) × 1



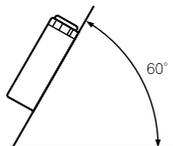
取り付けの前に知ってほしいこと

■取り付け上のご注意

必ず本機および取付キットに付属の部品を指定通りに使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、確実に固定できずに外れたりして危険です。



本機の性能を確実に発揮するために、水平に対して60度以内の角度で取り付けてください。



■取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認してから、取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

取付キットを別売しています

車種や年式によっては、別売のバイオンア製取付キットを使用しないと、取り付けられないこともあります。当社では車種別専用取付キットを用意していますので、販売店にご相談ください。

ダッシュボード下へ取り付ける場合は、Dサイズ用汎用取付ケースやアンダーダッシュ用取付キットをご使用ください。

接続の前に知ってほしいこと

■接続上のご注意

本機の黒リード線(アース)を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。



本機は、エンジンスイッチにACCがない車では使用できません。必ず、エンジンスイッチにACCがある車でご使用ください。

赤リード線(アクセサリ電源)は、常にバッテリーから電源が供給される電源回路には、接続しないでください。接続すると車のバッテリーが消耗してしまいます。

本機のアンプにはBP TLという回路を使用しています。スピーカーのリード線をアースに接続したり、複数のスピーカーの(-)リード線を、共通にして接続したりしないでください。

本機と組み合わせるスピーカーには、最大入力50W以上のハイパワー用で、インピーダンスが4Ωから8Ωのものを使用してください。規格以外のスピーカーのご使用は、スピーカーの発火・発煙・破損の原因となります。

黒リード線(アース)は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となるおそれがあります。

ガラスアンテナ車は、アンテナプースターの電源を、必ず本機の青/白リード線(アンテナコントロール)に接続してください。接続を忘れるとラジオが受信できません。

アンテナプースターの電源の位置は、車種によって異なります。(ラジオがONにならないと、プースターがONにならない車もあります。)詳しくは、取り付け技術のある販売店にご相談ください。

■接続のポイント

ノイズ防止のために

アンテナコードは、スピーカーコードおよび電源リード線からできるだけ離して配置してください。

電源配線キットを別売しています

システム全体の消費電流が大きくなる場合は、バッテリーから直接電源をとることをおすすめします。当社では、電源配線キット「RD-221」を別売していますので、販売店にご相談ください。

■コネクター着脱のポイント

コネクターは、「カチッ」と音がするまで押し込んで、確実に接続してください。

コネクターを外すときは、コネクター部分を持って引っ張ってください。コードを引っ張るとコードが抜けてしまうことがあります。

バッテリー交換時のご注意

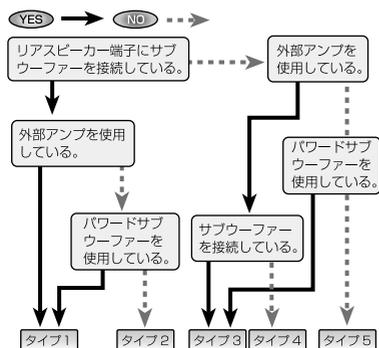
本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源OFFのときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチをON(またはACC)にしないでください。バッテリーが上がるおそれがあります。

車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットチャンネル(→P18)、カレンダー設定(→P34)、時計(→P34)、オーディオ調整(→P30)などの設定内容は消去されます。消去された場合は、再設定してください。オーディオ調整の設定内容などは、メモしておくことをおすすめします。

サブウーファースの接続について

本機では、リアスピーカー端子やRCA出力端子にサブウーファースを接続できます。サブウーファースの接続方法やシステムによって、サブウーファースの設定方法は大きく異なります。下表に従い、お手持ちのシステムに合わせて正しく設定してください。



■ タイプ1

- ※ 入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。
- ※ パワードサブウーファースの場合は、遮断周波数を最高値に設定する。

- 1 初期設定メニュー (→P33) で、S/Wコントロールを「Rear SP:S/W」にする
- 2 オーディオメニュー (→P30) で、「Subwoofer 1」をNormalまたはReverseにする
- 3 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

■ タイプ2

- 1 初期設定メニュー (→P33) で、S/Wコントロールを「Rear SP:S/W」にする
- 2 オーディオメニュー (→P30) で、「Subwoofer 1」をNormalまたはReverseにする

- 3 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

■ タイプ3

- ※ 入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。
- ※ パワードサブウーファースの場合は、遮断周波数を最高値に設定する。

- 1 初期設定メニュー (→P33) で、S/Wコントロールを「Rear SP:F. Range」にする
- 2 オーディオメニュー (→P30) で、「Subwoofer 1」をNormalまたはReverseにする
- 3 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

■ タイプ4

- ※ 入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。

- 1 初期設定メニュー (→P33) で、S/Wコントロールを「Rear SP:F. Range」にする
- 2 オーディオメニュー (→P30) で、「Subwoofer 1」をNormalまたはReverseにする
- 3 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

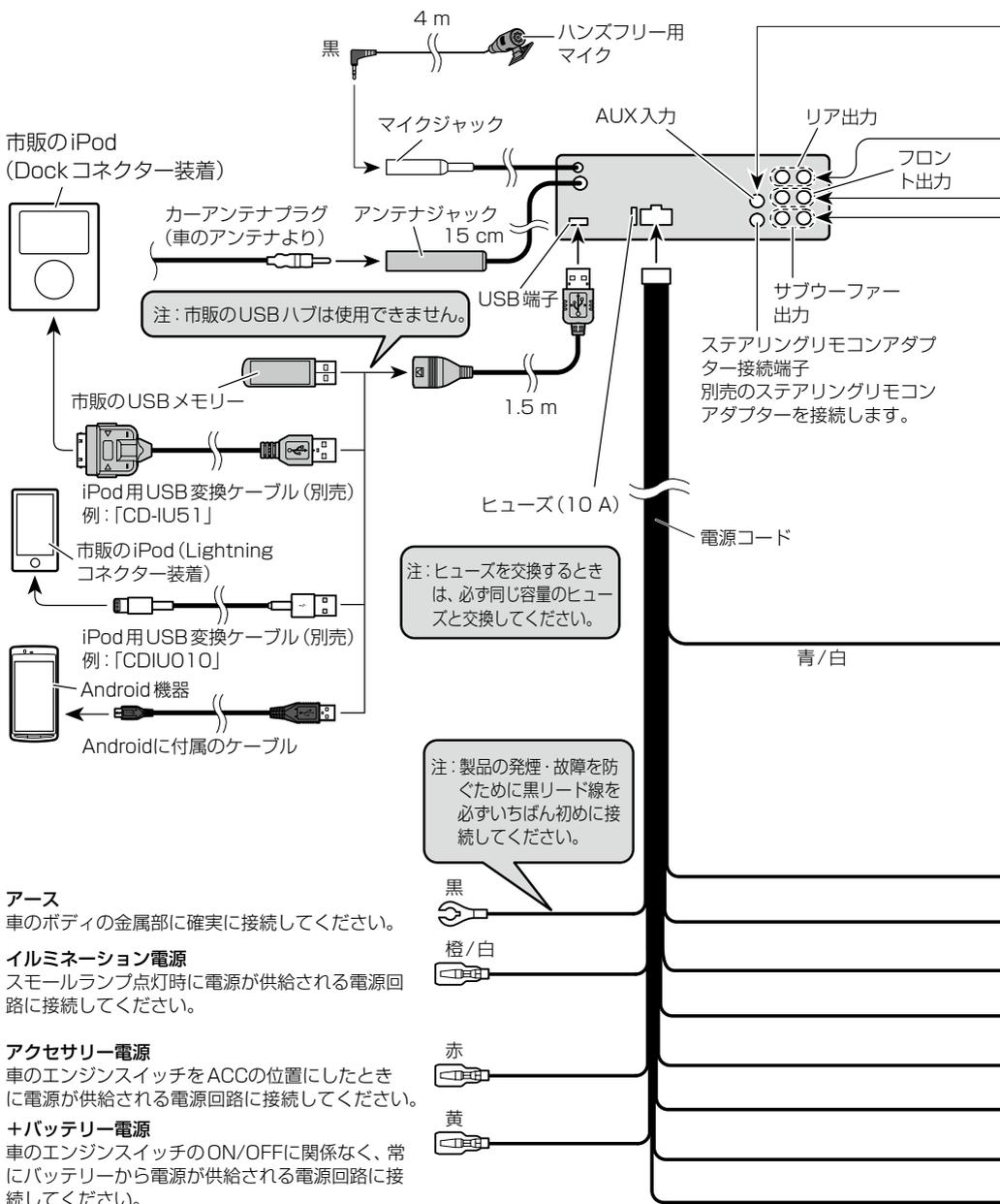
■ タイプ5

- 1 初期設定メニュー (→P33) で、S/Wコントロールを「Rear SP:F. Range」にする

電源コードと周辺機器を接続する

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ 本機のスピーカーリード線にリアスピーカーを接続する場合



アース

車のボディの金属部に確実に接続してください。

イルミネーション電源

スモールランプ点灯時に電源が供給される電源回路に接続してください。

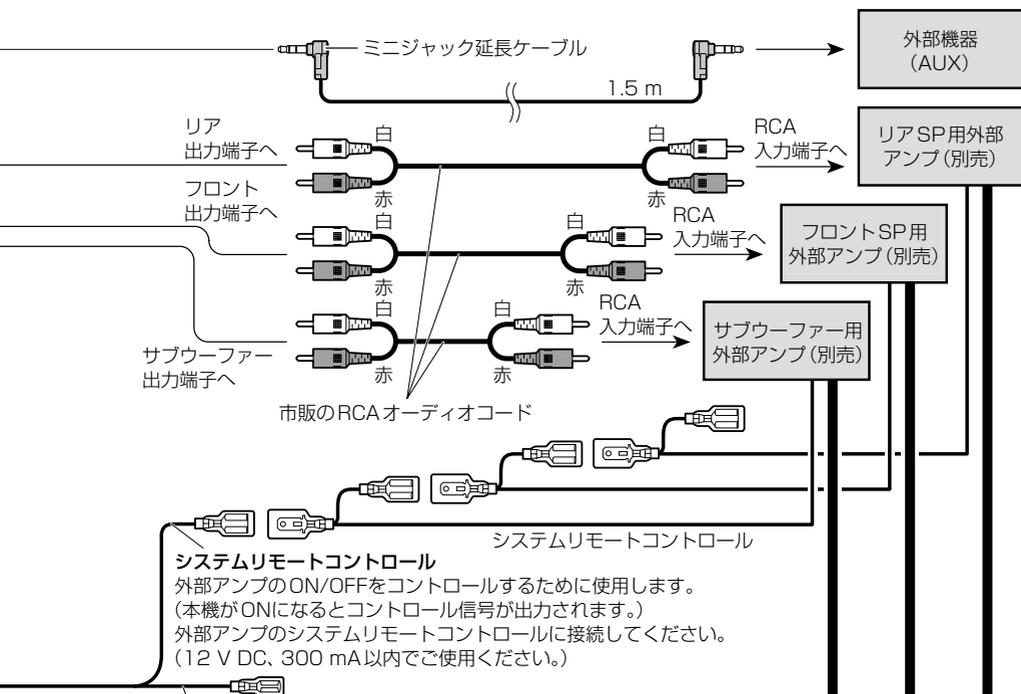
アクセサリ電源

車のエンジンスイッチをACCの位置にしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。

+バッテリー電源

車のエンジンスイッチのON/OFFに関係なく、常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。

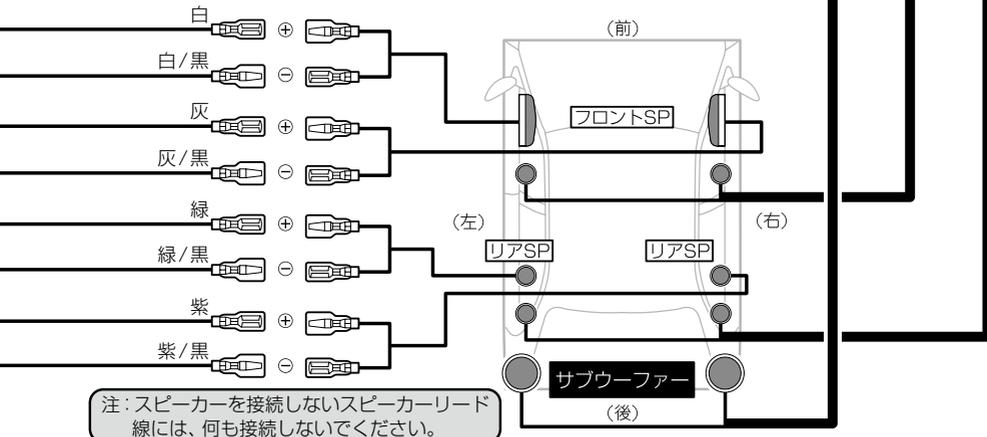
注: 赤、黄、橙/白のリード線は車のヒューズユニットを通した後の端子に接続してください。



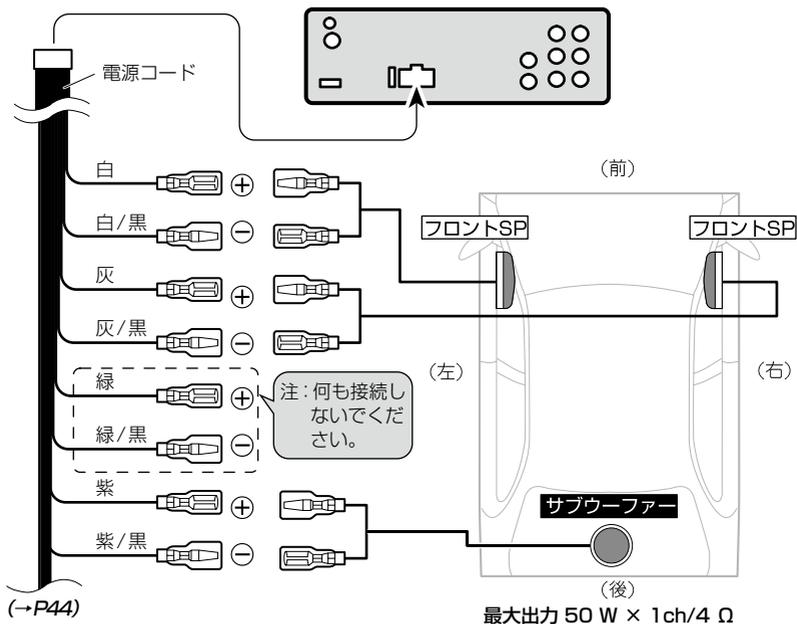
アンテナコントロール

アンテナをコントロールするために使用します。(12 V DC、300 mA以内でご使用ください。)
下記車両については未接続状態の場合ラジオが受信できない場合がありますので必ず接続してください。

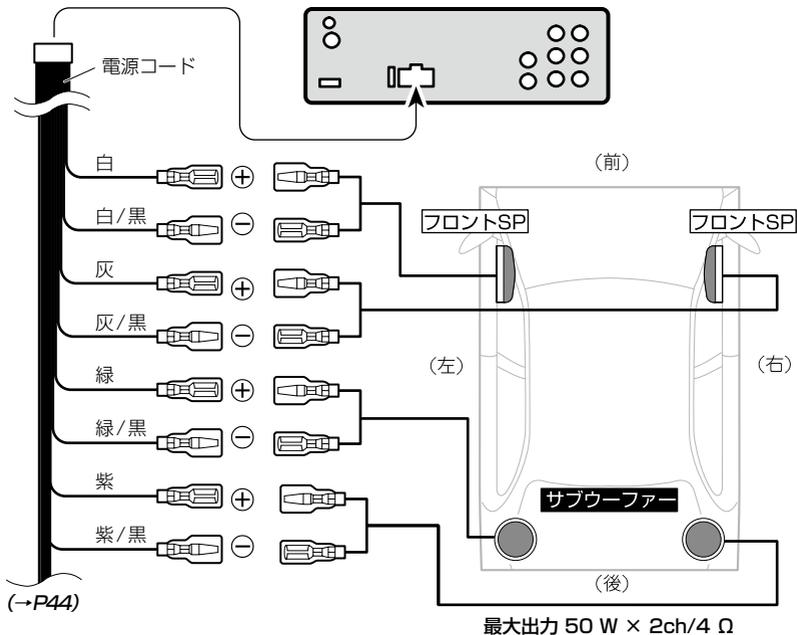
- オートアンテナ車の場合：
車側のオートアンテナのコントロール入力端子に接続してください。
※アンテナを下げる場合は、電源OFFにしてください。
- ルーフアンテナ車やガラスアンテナ車などの場合：
車側のアンテナブースターの電源入力端子に接続してください。



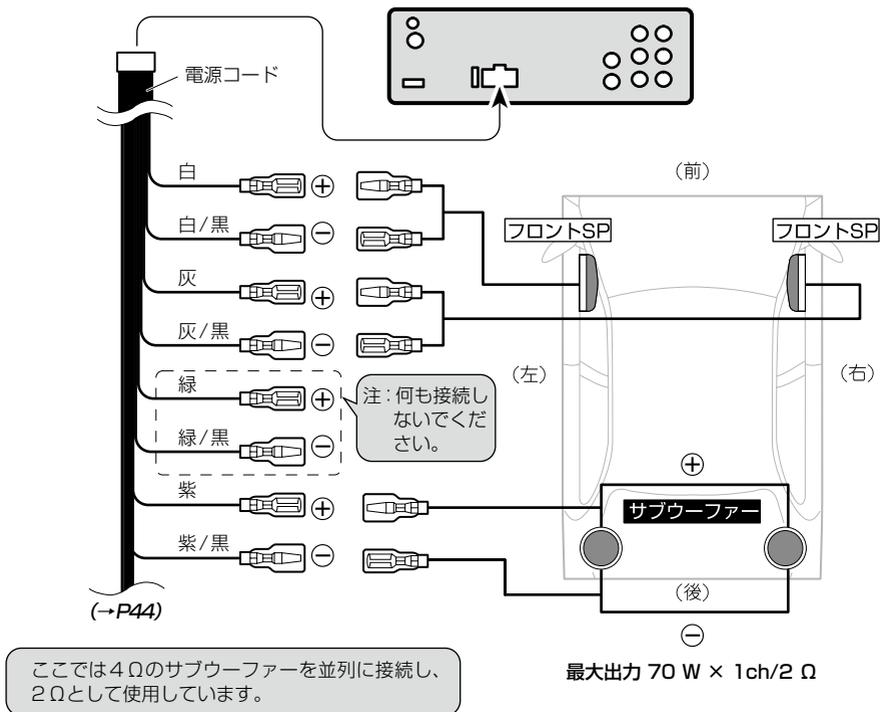
■ 本機のスピーカーリード線にサブウーファーを接続する場合(1)



■ 本機のスピーカーリード線にサブウーファーを接続する場合(2)



■本機のスピーカーリード線にサブウーファーを接続する場合(3)

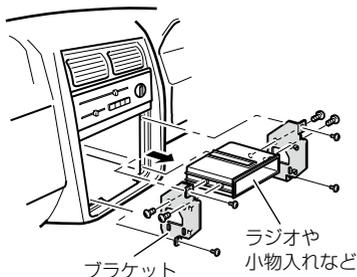


本体を取り付ける

トヨタ車、日産車への取り付け例です。

1 車のラジオ、小物入れなどを取り外す

ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを留めているブラケットを取り外します。そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。

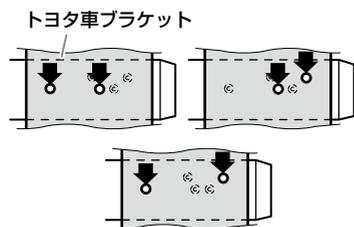


• 取り外すネジの位置などは車種により異なります。詳しくは、お買い上げの販売店、または、最寄りのディーラーにお問い合わせください。

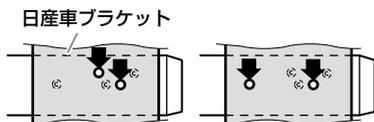
2 ネジ留めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねて、ネジ穴が合う位置を確認してください。ブラケットのネジ穴は次のタイプがあります。

トヨタ車の場合

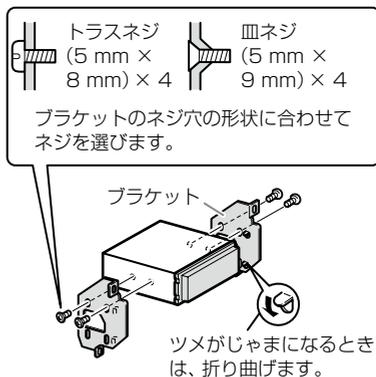


日産車の場合



3 ブラケットを付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ2カ所ずつ、付属のネジでネジ留めして、元通り車に取り付けます。



■ フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた

フロントパネルを取り外す(デタッチ)ことができます。操作方法は、P9をご覧ください。

動作を確認する

接続・取り付けが終わったら、次の操作を行って、本機が正常に動作することを確認してください。

1 接続／取り付けをもう一度確認する

• 接続／取り付けに誤りがないか、各コネクタは確実に接続されているかもう一度、目で見ても確認してください。

2 車のエンジンをかける

3 本機の動作を確認する

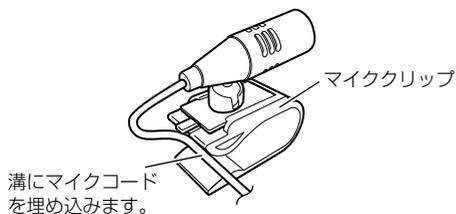
確認後にセットアップメニューが自動で起動しますので、設定を行ってください(→P8)。

ハンズフリー用マイクの取り付け

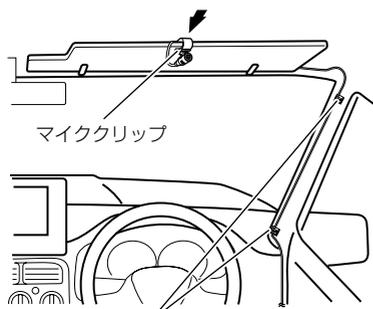
• ハンズフリー時に明瞭な音質を得るために、マイクはできるだけドライバーの近くに取り付けてください。また、エコー(反響音)を軽減するため、なるべく車のスピーカーから離れた位置に設置してください。

サンバイザーにはさんで取り付ける場合

1 マイククリップにマイクコードを埋め込む



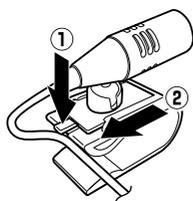
2 サンバイザーにマイククリップを挟み込み、マイクを取り付ける



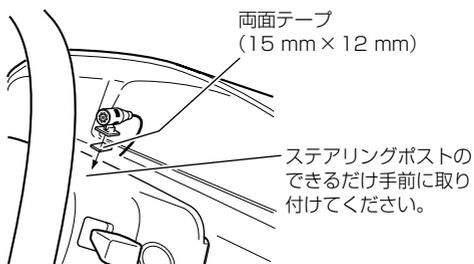
クランパー（市販品）で要所を固定しながら、マイクコードを引き回します。

ステアリングポストに取り付ける場合

1 マイククリップを取り外す



2 ステアリングポストにマイクを取り付ける



マイク角度の調節のしかた

マイクの角度は、下図のように矢印の方向に動かして調節します。



困ったときは

故障かな？と思ったら

**故障かな？
と思ったら**
修理を依頼される前に、
次の表の内容をチェック
してください。



**それでも
直らないときは**
「保証書とアフターサービ
ス」をお読みにになり、修理
を依頼してください。

■ 共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが 正しく接続されていない。 ヒューズが切れている。	正しく確実に接続されているか、もう一度確認してください。 車両のバッテリーのマイナス端子を外して、1分後再接続してください。 ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものと交換してください。
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。 前後の音量バランスの調節が 適切でない。	音量を調節してください(→P11)。 正しく調節してください(→P30)。
前または後ろのスピーカー から音が出ない。	前後の音量バランスの調節が 適切でない。	正しく調節してください(→P30)。
左または右のスピーカー から音が出ない。	左右の音量バランスの調節が 適切でない。	正しく調節してください(→P30)。
ディスプレイの表示がおか しい。	背景画面が設定されている。	お好みの表示を選んでください(→P38)。
エンジンを切ったら警告音 (ブザー)が鳴る。	デタッチワーニングがONになっ ている。	フロントパネルを取り外してください。フロン トパネルを取り外さない場合は、デタッチワー ニングをOFFにしてください(→P35)。
本機が誤動作する。 雑音が入る。	携帯電話などの電波発信機器を本機に 近づけて使用している。	電波発信機器を本機から離してご使用ください。

■ ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、 「ジージー、ザーザー」 という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。 放送局の電波が弱い。 周りに障害物があるなど、受信状態が 良くない。	周波数を正しく合わせてください(→P11)。 ほかの放送局を選局してみてください(→P11)。 受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください(→P11)。
FMIは受信するが、AMが受 信できない。 受信感度が悪い。	アンテナコントロールが接続されてい ない。 自動車のアンテナが伸びていない。	アンテナコントロールを正しく接続してくだ さい(→P45)。 アンテナを確実に伸ばしてください。

■ CD、WMA / MP3 / AAC / WAV

症状	原因	処置
CD再生中、大きな雑音か 出る。 CDの再生が途中で止まる。 CDが自動的に出てくる。	CDに大きなキズや反りがある。 CDが極端に汚れている。 CDに曇りや汚れがついている。 CDの裏表を逆にしてセットしている。	CDを交換してください。 良くなれば、CDの不良です。 CDの汚れをふき取ってください(→P55)。 CDの曇りや汚れをふき取ってください(→P55)。 CDのレーベル面を上にしてセットしてください。

■ AUX

症状	原因	処置
音が出ない。 音が小さい。	外部機器 (AUX) の音量を下げている。 抵抗入り AUX ケーブルを使用して接続している。	外部機器 (AUX) の音量を調節してください。 抵抗なし AUX ケーブルを使用して接続してください。

■ BT AUDIO

症状	原因	処置
再生できない。	Bluetooth 機器との接続が完了していない。	接続が完了してから操作してください (→P26)。
	Bluetooth 接続した携帯電話を使用中である。	同時に複数の Bluetooth 機器は使用できません。接続を切り換えてください (→P26)。
	Bluetooth 接続した携帯電話を使用後、接続終了動作が正しく行われなかった。	再度接続してください (→P26)。

こんなメッセージが表示されたら

正常に再生できないときは、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

■ 共通のエラー表示

メッセージ(エラー番号)	原因	処置
「AMP ERROR」	スピーカーの接続状態または本機に異常があり、保護回路が動作した。	スピーカーの接続状態をご確認ください。 エンジンスイッチを OFF → ON してもメッセージが消えない場合は、販売店またはパイオニアカスタマーサポートセンターにご相談ください。

■ CD、WMA / MP3 / AAC / WAV のエラー表示

メッセージ(エラー番号)	原因	処置
「ERROR-07、11、12、17、30」	CD が汚れているとき。 CD にキズやひびがあるとき。	CD の汚れをふき取ってください。 CD を交換してください。
「ERROR-15」	CD-R / CD-RW を録音しないまま使用している。	CD-R / CD-RW は、録音してからお使いください。
「ERROR-10、11、12、15、17、30、A0」	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にするか、CD 再生を一度やめてから、もう一度 CD 再生にしてください。
「ERROR-23」	再生できないフォーマットの CD-ROM を挿入した。	CD を交換してください。
「NO AUDIO」	何も録音されていない CD-ROM を挿入した。	WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルの記録されている CD-ROM と交換してください。
「PROTECT」	ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権管理 (DRM) で保護されている。	CD を交換してください。
「SKIPPED」	デジタル著作権管理 (DRM) で保護された WMA ファイルを再生した。	デジタル著作権管理 (DRM) で保護されていないファイルを再生してください。

■ USBのエラー表示

メッセージ(エラー番号)	原因	処置
「CHECK USB」	USB コネクタまたはUSB ケーブルがショートした。	USB コネクタ／USB ケーブルが何かにはさまっていないか、破損していないか確認してください。
	規定(→P60)以上の電流を消費するUSB 機器を接続した。	接続したUSB 機器を外してください。そのあとで、車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにしてください。次に、対応するUSB 機器を接続してください。
「NOT COMPATIBLE」	接続されたUSB 機器が本機に対応していない。	USB Mass Storage Class 対応のUSB 機器を接続してください。
「NO AUDIO」	何も収録・保存されていないUSB 機器を接続した。	対応する圧縮オーディオファイルが収録・保存されたUSB 機器を接続してください。
	セキュリティー機能付きのUSB メモリーを接続した。	USB メモリーの説明書に従って、セキュリティーを解除してから使用してください。
「PROTECT」	USB 機器内のすべてのファイルがWindows Media DRM 9／10で保護されている。	Windows Media DRM 9／10で保護されていない圧縮オーディオファイルを収録・保存したUSB 機器を接続してください。
「SKIPPED」	Windows Media DRM 9／10で保護されたWMA ファイルを再生した。	Windows Media DRM 9／10で保護されていない圧縮オーディオファイルを再生してください。
「ERROR-19」	正常に通信できない。	以下のいずれかの処置を行ったあと、ソースをUSBに切り換えてください。
		車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONする。／接続したUSB 機器を一度外してから接続する。／別のソースに切り換える。
「ERROR-23」	接続されたUSB 機器のフォーマットが、FAT32/FAT16/FAT12ではない。	フォーマットが、FAT32、FAT16、またはFAT12のUSB 機器を接続してください。
「ERROR-60」	データベースの保存に失敗した。	車のエンジンスイッチを一度OFFにする。／ソースを一度OFFにしてからONにする。／USBを抜く。
「CHECKING ♪ TAGS」	Music ブラウズのためのデータベース、またはリストを構築している。	データベース、またはリスト構築が完了するまでお待ちください。

■ iPodのエラー表示

メッセージ(エラー番号)	原因	処置
「CHECK USB」	iPodは動作するが、充電されない。	iPodケーブルがショートしていないか(たとえば、金属物にはさまれていないか)確認してください。確認後、車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、iPodを一度脱着してください。
「NOT COMPATIBLE」	接続されたiPodが本機に対応していない。	本機に対応したiPodを使用してください。
「ERROR-19」	正常に通信できない。 iPodに問題が発生した。	コネクタを一度外し、iPodのメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクタを接続してください。それでもiPodが正常に動作しない場合は、iPodをリセットしてください。
		iPodソフトウェアのバージョンが古い。
「ERROR-16」	iPodに問題が発生した。	コネクタを一度外し、iPodのメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクタを接続してください。それでもiPodが正常に動作しない場合は、iPodをリセットしてください。
		選んだプレイリストに曲が入っていない。
「STOP」	選んだプレイリストに曲が入っていない。	曲が入っているプレイリストを選んでください。
「NO SONGS」	iPodに曲が入っていない。	iPodに曲を転送してください。

■ APPのエラー表示

メッセージ(エラー番号)	原因	処置
スマートフォンのアプリを起動してください	iPhoneやiPod touchのアプリケーションが再生状態でないときに、本機でAPP操作をしようとした。	iPhoneやiPod touchのアプリケーションを再生状態にしてください。再生状態にしないと、本機での操作はできません。
Bluetooth機器が見つかりません メニュー画面から登録をしてください	Bluetooth機器が登録されていない。	Bluetooth機器を登録してください(→P26)。
Bluetoothエラー BANDキーでリトライしてください	Bluetooth機器の接続に失敗した。	再度、Bluetooth機器を接続してください。

■ Bluetoothのエラー表示

メッセージ(エラー番号)	原因	処置
「ERROR-10」	本機のBluetoothモジュールに通信できない。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにしてください。それでも正常に動作しない場合は、販売店またはパイオニアカスタマーサポートセンターにご相談ください。
「NO SERVICE」	Bluetooth機器が本機に接続されていない。	Bluetooth機器を本機に接続してください。

再生可能なメディアとファイルについて

フォーマット	拡張子	対応メディア	
		CD-R/RW	USB
WMA	.wma	○	○
MP3	.mp3	○	○
AAC	.m4a	○	○
WAV	.wav	○	○
FLAC	.flac	—	○

WMAとは？ 「Windows Media™ Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver. 7以降を使用してエンコードできます。

MP3とは？ 「MPEG Audio Layer3」の略で、ISO (国際標準化機構) のワーキンググループ (MPEG) の定めた音声圧縮の規格です。MP3は、音声データを元のデータの約1/10のサイズに圧縮できます。

AACとは？ 「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG-2、MPEG-4で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

WAVとは？ 「Waveform」の略で、Windows®での標準音声フォーマットです。

FLACとは？ 「Free Lossless Audio Codec」の略で、オープンソースとして開発された音声フォーマットです。MP3やAACと異なり、可逆圧縮であるため、音質を劣化させることなく圧縮できます。

コーデック	フォーマット					
	WMA	MP3	AAC	WAV	FLAC	
サンプリング周波数	32 kHz ~ 48 kHz	8 kHz ~ 48 kHz *	11.025 kHz ~ 48 kHz	16 kHz ~ 48 kHz (LPCM 形式) 22.05 kHz ~ 44.1 kHz (MS ADPCM 形式)	8 kHz ~ 48 kHz	
ビットレート	CBR	48 kbps ~ 320 kbps	8 kbps ~ 320 kbps	16 kbps ~ 320 kbps	—	—
	VBR	48 kbps ~ 384 kbps	8 kbps ~ 320 kbps	16 kbps ~ 320 kbps	—	—

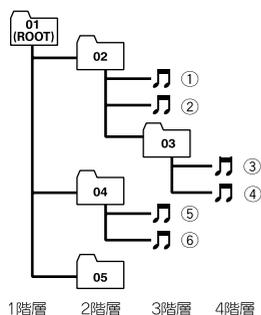
※サンプリング周波数が32 kHz、44.1 kHz、48 kHzのMP3ファイルを再生する場合のみ、エンファシスに対応。



- ファイルをエンコード/ライティングしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- ファイルをエンコード/ライティングしたアプリケーションによっては、文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 本機で画像データを含むWMA/AACファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- この製品は、以下の形式には対応していません。
 - Windows Media Audio Professional (5.1 ch)
 - Windows Media Audio Lossless (可逆圧縮)
 - Windows Media Audio Voice
- MTP接続したAndroid機器では、WAVファイルは再生できません。
- 曲間(トラック間)にブランクがないCDを、WMA/MP3/AAC/WAVファイルとしてディスクに記録して再生した場合、曲間が音飛びのように聞こえます。
- ID3 tagのVer. 1.0 / 1.1 / 2.2 / 2.3 / 2.4のアルバム名、曲名、およびアーティスト名の表示に対応しています。なお、ID3 tagのVer. 1.XとVer. 2.Xが混在している場合は、Ver. 2.Xが優先されます。
- m3uのプレイリストには対応していません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、およびMP3 PRO フォーマットには対応していません。
- iTunes Storeで購入された楽曲(.m4p)は、CD-R/CD-RWまたはUSB機器に記録して再生できません。
- パーティションを作ったUSBメモリーは、再生可能な最初のパーティションだけを再生します。
- 使用するUSB機器の種類によっては、本機が正しく認識できない場合があります。また、曲を正しく再生できない場合があります。
- 本機は、次の形式には対応していません。
 - Apple ロスレス・エンコーダ
- 表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではないことがあります。

■メディア内のフォルダー構成について

・メディア内のフォルダーと圧縮オーディオファイルの構成は、下図のようになります。(USB ポータブルオーディオプレーヤーの場合は異なります。)



- ・01～05はフォルダー番号の割り当て、①～⑥は曲の再生順の例です。お客様が本機を操作してフォルダー番号を割り当てたり、再生の順番を指定することはできません。
- ・再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。
- ・再生の順序を指定するには、次の方法を推奨します。
 1. コンピューターで、「001xxx.mp3」や「099yyy.wma」など順番を示す数字をファイル名の先頭に付ける。
 2. それらのファイルをフォルダーに入れる。
 3. フォルダー単位でメディアにコピーする。ただしコンピューターの環境によっては、この方法で指定できない場合もあります。

- ・WMA/MP3/AAC/WAV/FLAC ファイルを含まないフォルダーは認識しません。フォルダーの番号を表示せず、スキップします。
- ・8階層までのWMA/MP3/AAC/WAV/FLAC ファイルの再生に対応しています。ただし階層が多い場合、再生が始まるまでに時間がかかります。
- ・ファイル名の最大表示文字数は、拡張子を含めて32文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は32文字です。
- ・再生できるフォルダー、ファイルの合計は以下の通りです。
 - CD-R/RW：最大99フォルダー、最大999ファイル
 - USB：最大500フォルダー、最大15,000ファイル

ディスクについて

■取り扱い上のご注意

- ・ディスクは、信号記録面(虹色に光っている面)を触らないように持ってください。
- ・ディスクにキズを付けしないでください。
- ・ディスクにシールなどを貼らないでください。
- ・ディスクに市販のラベルなどを貼りつけてください。
 - ディスクに反りが生じて、再生できなくなる原因になります。
 - 再生中にラベルがはがれると、ディスクが取り出せなくなり、本機の故障の原因になります。
- ・ディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。
- ・レーベル面に印刷ができるディスクを使用するときは、ディスクの説明書や注意書きを確認してください。ディスクによっては、挿入または取り出しができないものがあります。そのようなディスクを使用すると、本機の故障の原因になります。

- ・製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実使用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

■お手入れについて

- ・ディスクが汚れたときは、柔らかいきれいな布でディスクの内周から外周方向へ軽くふいてください。



- ・アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。

■保管上のご注意

- ・直射日光の当たるところや高温になるところには、ディスクを保管しないでください。
 - 直射日光や高温など、車内での保管状況により、ディスクは再生できなくなる場合があります。
- ・ディスクが反らないように、必ずケースに入れて保管してください。

■ディスク再生の環境について

- ・走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。
- ・寒いとき、ヒーターを入れた直後にディスク再生を始めると、本機内部の光学系レンズやディスクに露が付いて、正常な再生ができないことがあります。このようなときは、1時間ほど放置して自然に露が取れるまでお待ちください。ディスクに付いた露は柔らかい布で拭いてください。
- ・高温になると保護機能が働き、ディスク再生が停止します。

■使用できないディスクについて

- ・以下のようなディスクは使用しないでください。ディスクによっては、挿入または取り出しができない場合があります。そのようなディスクを使用すると、本機の故障の原因になります。表紙に記載されているマークが付いたディスクをお使いください。マークは、ディスクのレーベル面やパッケージ、またはジャケットに記録されています。
 - DualDisc
 - 8 cm ディスク (アダプター装着時も含む)
 - CD 規格外ディスク
 - ひび、キズ、反りのある CD



- 特殊形状のディスク



- シールなどを貼ったディスク



■再生できないディスクについて

- ・以下のようなディスクは、再生できないことがあります。
 - 音楽用 CD レコーダーまたはコンピューターで記録したディスク
 - ファイナライズされていないディスク
 - パケットライトで記録されたディスク
 - ISO9660 のレベル 1、レベル 2、および拡張フォーマット (Joliet, Romeo) に準拠していない CD-R/ RW/ROM ディスク

USB 機器について

- ・USB 機器の取り扱いについて詳しくは、それぞれの説明書をお読みください。
- ・本機との組み合わせで使用時に携帯デジタルプレーヤーや USB メモリーのデータなどが消失した場合でも、その補償については責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・本機と組み合わせで使用する場合、USB 機器は必ず固定してください。USB 機器が落下して、プレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。

■本機との接続について

- ・USB メモリー、USB オーディオプレーヤー以外 (USB 扇風機など) は接続しないでください。
- ・USB 機器を本機に接続する際は、付属の USB ケーブル以外は、使用しないでください。
- ・接続する USB 機器によっては、ラジオにノイズの影響を与えることがあります。
- ・USB ハブを使用しての接続には対応していません。

■保管上のご注意

- ・USB 機器を直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。

iPod について

■本機が対応する iPod

- ・本機は以下の iPod に対応しています。本機で確認済みのソフトウェアのバージョンは次のとおりです。これ以前のバージョンについては保証できません。

Made for

- 第5 世代 iPod touch : Ver. 7.1
- 第4 世代 iPod touch : Ver. 6.1.3
- 第3 世代 iPod touch : Ver. 5.1.1
- 第2 世代 iPod touch : Ver. 4.2.1
- 第1 世代 iPod touch : Ver. 3.1.3
- iPod classic 160G : Ver. 2.0.4
- iPod classic 120G : Ver. 2.0.1
- iPod classic : Ver. 1.1.2
- iPod 第5 世代 : Ver. 1.3
- 第7 世代 iPod nano : Ver. 1.3
- 第6 世代 iPod nano : Ver. 1.2
- 第5 世代 iPod nano : Ver. 1.0.2
- 第4 世代 iPod nano : Ver. 1.0.4
- 第3 世代 iPod nano : Ver. 1.1.3
- 第2 世代 iPod nano : Ver. 1.1.3
- 第1 世代 iPod nano : Ver. 1.3.1
- iPhone 5s : Ver. 7.1
- iPhone 5c : Ver. 7.1
- iPhone 5 : Ver. 7.1
- iPhone 4s : Ver. 7.1
- iPhone 4 : Ver. 7.1
- iPhone 3GS : Ver. 5.1.1
- iPhone 3G : Ver. 4.2.1
- iPhone : Ver. 3.1.2

電波に関するご注意

- USB接続は、iPhone 5/iPhone 4S/iPhone 4/iPhone 3GS/iPhone 3G/iPod touch (第1世代から第5世代) /iPod classic/iPod nano (第1世代から第7世代) に対応しています。
- 最新の情報についてはカロッツェリアホームページ (<http://carrozzeria.jp>) でご確認ください。
- 操作方法は、iPodの世代やソフトウェアのバージョンによって異なることがあります。
- Lightningコネクターを装着したiPodを接続するには、別売のiPod用変換ケーブル (例: CD-IU010) が必要です。
- Dockコネクターを装着したiPodを接続するには、別売のiPod用USB変換ケーブル (例: CD-IU51) が必要です。



- iPodは、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製・再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- iPodを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本機と組み合わせて使用する場合、iPodは必ず固定してください。iPodが落下して、プレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。
- iPodの取り扱いについて詳しくは、iPodの説明書をお読みください。
- 本機と組み合わせて使用しているときにiPodのデータが消失しても、消失したデータの補償についてはご容赦ください。

■ iPodの設定について

- 音質効果を最適にするために、iPodが接続されると、本機はiPodのEQの設定を自動的に「Flat」にします。取り外すと、設定は自動的に元に戻ります。

- 本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として、技術基準適合証明を受けています。したがって本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また本機は日本国内のみで使用できます。
- 下記の事項を行うと法律に罰せられることがあります。
 - 分解/改造すること。
 - 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと。
- 本機の無線機能は、2.4 GHzの周波数帯の電波を利用しています。この周波数帯の電波はいろいろな機器 (電子レンジ、無線LAN機器など) が使用していますので、電波の干渉により、本機の無線機能の音声がとぎれたり聞きとりにくくなる場合があります。また、他の機器の動作や性能に影響を及ぼすことがあります。本機は電波干渉の影響を受けにくい方式ですが、下記の内容に注意してください。
 - 無線LANを利用したAV機器・防犯機器などを使用している環境で、本機の無線機能を使うと、声かとぎれたり、無線LAN機器の動作に大きな影響を与えることがあります。
- その他、下記の機器でも、2.4 GHzの周波数帯の電波を使用しているものがあります。これらの機器の周辺では、音声がとぎれたり、使えなくなることがあります。また、相手の機器の動作に影響を与えることがあります。
 - 火災報知機・ワイヤレスAV機器 (テレビ、ビデオ、パソコンなど)
 - 工場や倉庫などの物流管理システム・鉄道車両や緊急車両の識別システム
 - マイクロ波治療器・ゲーム機のワイヤレスコントローラー
 - 自動ドア・万引き防止システム (書店やCDショップなど)
 - 自動制御機器・その他、Bluetooth®対応機器やVICS (道路交通網システム)
 - アマチュア無線局など



- ①「2.4」GHz帯を使用する無線設備を表します。
- ②「FH」変調方式を表します。
- ③「1」想定される与干渉距離 (約 10 m) を表します。

保証書とアフターサービス

■保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめの上、ご購入の際に販売店より受け取ってください。保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。

記載内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

■保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

■修理について

本機は持ち込み商品のため出張修理は承っておりません。引き取り修理サービスをご利用ください。(お車から取り外していただいた状態での引き取りとなります。また送料はお客様ご負担となります。)

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店または修理受付窓口にご連絡ください。連絡先については、裏表紙の「修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店または修理受付窓口にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

車からの脱着(お取り外し・お取り付け)について

弊社修理拠点へのお持ち込みは、製品をお車から取り外した状態で、承ります。なお、修理・点検時における本製品のお車からの脱着費用の負担、及び脱着作業は承っておりません(保証期間内含む)。販売店、または取付店にご相談ください。お車からの脱着費用につきましてはお客様のご負担となります。

■補修用性能部品の最低保有期間

弊社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

■ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はバイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

商標／著作権など

●本製品は、電気通信事業法に基づく設計認証を取得しています。



●本機内蔵の通信モジュールは、電波法に基づく設計認証を取得した特定無線設備(YWX-1)を使用しています。

YWX-1



●WMA

Windows Medialは、米国Microsoft Corporationの、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

本製品は、米国Microsoft Corporationが所有する技術を使用しています。また、米国Microsoft Licensing Inc.の許可を得ずに使用または頒布できません。

●MP3

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。以下放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。以下放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページ <http://www.mp3licensing.com> をご覧ください。

営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送(地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア)、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

● FLAC

Copyright © 2000-2009 Josh Coalson
Copyright © 2011-2013 Xiph.Org Foundation
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

● iTunes

iTunesは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

● iPod & iPhone



iPod, iPod classic, iPod nano, および iPod touchは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

「Made for iPod」および「Made for iPhone」とは、それぞれ iPodあるいは iPhone 専用に接続するように設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。

このアクセサリを iPodあるいは iPhone と使用することにより、無線の性能に影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。

● Android

AndroidはGoogle inc.の商標です。

● Bluetooth

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは、BluetoothSIG, Inc.が所有する登録商標であり、パイオニア株式会社は、これら商標を使用する許可を受けています。

他のトレードマークおよび商号は、各所有権者が所有する財産です。

主な仕様

● 共通部

使用電源：.....DC 14.4 V(10.8 V ~ 15.1 V使用可能)
アース方式：.....マイナスアース方式
最大消費電流：.....10.0 A
外形寸法
(取付寸法)：.....178 (W) mm × 50 (H) mm × 165 (D) mm
(ノーズ寸法)：.....170 (W) mm × 46 (H) mm × 17 (D) mm
質量：.....1.05 kg (コード含まず)

● アンプ / オーディオ部

最大出力：
・ 50 W × 4 ch / 4 Ω
・ 50 W × 2 ch / 4 Ω + 70 W × 1 ch / 2 Ω
(サブウーファー使用時)

定格出力：.....22 W × 4 (50 Hz ~ 15 000 Hz、5 %
THD、4 Ω load、Both Channels Driven)

負荷インピーダンス：.....4 Ω
(4 Ω ~ 8 Ω使用可能) (4 Ω ~ 8 Ω × 2 + 2 Ω × 1使用可能)

プリアウト最大出力レベル：.....4 V

出力インピーダンス：.....1 k Ω

イコライザー (5 バンドグラフィックイコライザー)

周波数：.....100Hz / 315Hz / 1.25kHz / 3.15kHz / 8kHz
調整幅：.....± 12 dB (2 dB step)

ラウドネスコンター

(LOW)：.....3.5dB (100Hz) 3dB (10kHz)
(MID)：.....1.0dB (100Hz) 6.5dB (10kHz)
(HIGH)：.....1.1dB (100Hz) 1.1dB (10kHz)
(ボリューム：-30dB)

ハイパスフィルター

周波数：.....50Hz/63Hz/80Hz/100Hz/125Hz
スロープ：.....- 12dB/oct.

サブウーファー出力

周波数：.....50 Hz / 63 Hz / 80 Hz / 100 Hz / 125 Hz
スロープ：.....- 18 dB / oct.
調整幅：.....+ 6 dB ~ - 24 dB
位相：.....NORMAL / REVERSE

バスブースター

調整幅：.....+12dB ~ 0 dB

● CD プレーヤー部

形式：.....コンパクトディスクオーディオシステム
使用ディスク：.....コンパクトディスク
信号フォーマット

サンプリング周波数：.....44.1 kHz
量子化ビット数：.....16 ビット直線

周波数特性：.....5 Hz ~ 20 000 Hz (± 1 dB)

S/N比：.....94 dB (1 kHz) (IHF-A ネットワーク)

ダイナミックレンジ：.....92 dB (1 kHz)

チャンネル数：.....2 (ステレオ)

MP3デコーディングフォーマット：.....MPEG-1 &
MPEG-2 AUDIO LAYER-3

WMAデコーディングフォーマット：.....Ver. 7、7.1、8、9、
10、11、12 (2 ch audio)
(Windows Media Player)

AACデコーディングフォーマット：.....MPEG-4 AAC
(Ver. 11.2以前のiTunesでエンコードされたもののみ)

WAVシグナルフォーマット：.....Linear-PCM、MS
ADPCM

● USB部

USB規格：.....USB 2.0 Full Speed

最大供給電流：.....1 A

USBクラス：.....マストストレージクラス
MTP (MEDIA TRANSFER PROTOCOL)

ファイルシステム：.....FAT12、FAT16、FAT32

MP3デコーディングフォーマット：.....MPEG-1 &
MPEG-2 AUDIO LAYER-3

WMAデコーディングフォーマット：.....Ver. 7、7.1、8、9、
10、11、12 (2 ch audio)

(Windows Media Player)
FLACデコーディングフォーマット：.....v1.3.0
(Free Lossless Audio Codec)

AACデコーディングフォーマット：.....MPEG-4 AAC
(Ver. 11.2以前のiTunesでエンコードされたもののみ)

WAVシグナルフォーマット：.....Linear-PCM、MS
ADPCM

● FMチューナー部

受信周波数帯域：.....76.0 MHz ~ 99.0 MHz

実用感度：.....11 dBf (0.8 μV/75 Ω、モノラル、S/N: 30 dB)

S/N：.....72 dB (IHF-A ネットワーク)

高調波歪率：.....0.3 % (65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ)
0.1 % (65 dBf 入力、1 kHz、モノラル)

周波数特性：.....30 Hz ~ 15 000 Hz (± 3 dB)

ステレオセパレーション：.....45 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

● AMチューナー部

受信周波数帯域：.....522 kHz ~ 1 629 kHz

実用感度：.....25 μV (S/N: 20 dB)

S/N：.....62 dB (IHF-A ネットワーク)

● Bluetooth部

Bluetoothバージョン：.....Bluetooth 3.0 certified

出力：.....最大+4 dBm (Power class 2)

● 付属品

コードユニット：.....1 式

ハンズフリー用マイク：.....1 式

取付ネジ類：.....1 式

リモコン：.....1

リチウム電池 (CR2025)：.....1

取扱説明書：.....1

保証書：.....1



・本書に記載している寸法・重量などは、実際の製品と異なる場合があります。実際の製品の仕様は、性能・機能改善のため、予告なく変更することがあります。

・取扱説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

「0120」で始まる電話番号は、携帯電話・PHS一部のIP電話などからは、ご使用になれません。

携帯電話・PHSからは、ナビダイヤル、またはIP電話をご利用ください。(通話料がかかります)

正確なご相談対応のために折り返しお電話をさせていただくことがございますので発信者番号の通知にご協力いただけますようお願いいたします。

商品についてのご相談窓口 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただけますようお願いいたします

パイオニア商品の取り付け・組み合わせなどについては、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

●商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター

※記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますのでお客様サポートサイトもご活用ください。

■お客様サポートサイト

<https://pioneer.jp/rd/support/>



■商品についてよくあるお問い合わせ(FAQ)

<https://pioneer.jp/rd/support/faq/>



■電話 《カーオーディオ、カーナビゲーション商品》

※受付時間はお客様サポートサイトでご確認ください

【固定電話から】

0120-944-111 (無料)

【携帯電話・PHSから】

050-3820-7540 (IP電話・有料)

または 0570-037-600 (ナビダイヤル・有料)

※カーナビゲーションの訪問宅電話番号検索機能に関する個人情報の削除などはこちらの窓口で承っております

■ファックス

0570-037-602 (ナビダイヤル・有料)

修理についてのご相談窓口 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただけますようお願いいたします

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の「故障かな?と思ったら」を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。

それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理受付窓口

■修理受付サイト

受付時間、よくあるお問い合わせなどはホームページをご確認ください

<https://pioneer.jp/rd/support/purpose/repair/>



■電話

【固定電話から】

0120-5-81028 (無料)

【携帯電話・PHSから】

050-3820-7550 (IP電話・有料)

または 0570-037-610 (ナビダイヤル・有料)

■ファックス

0120-5-81029 (無料)

部品のご購入についてのご相談窓口 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただけますようお願いいたします

●部品(付属品、取扱説明書など)のご購入について

部品受注センター

■部品受注サイト

受付時間、FAXでのご注文はホームページをご確認ください

<https://pioneer.jp/rd/support/purpose/parts/>



■電話

【固定電話から】

0120-5-81095 (無料)

【携帯電話・PHSから】

050-3820-7551 (IP電話・有料)

または 0570-057-140 (ナビダイヤル・有料)

■ファックス

0120-5-81096 (無料)

令和2年10月現在

記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

VOL.10

パイオニア株式会社

〒113-0021

東京都文京区本駒込 2-28-8 文京グリーンコート

© パイオニア株式会社 2014

<QRA3036-E>